介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
在宅介護実態調査
介護サービス事業所調査
介護支援専門員調査

実施報告書　概要版

令和５年５月

音更町

【　目　次　】

第１章　調査の概要 1
　１　調査の目的 1
　２　調査の内容 1
　３　調査票の配布及び回答状況 1

第２章　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果 2
　１　属性 2
　２　要介護リスク 4

第３章　在宅介護実態調査 ２０
　１　属性 ２０
　２　設問項目から見える在宅介護の状況について ２１

第４章　介護サービス事業所調査 ２５
　１　人材確保や雇用管理、福祉施策について ２５

第５章　介護支援専門員調査 ２８
　１　介護支援専門員の状況について ２８

第１章　調査の概要

１　調査の目的

（１）介護保険制度に対する町民や介護サービス事業所等の意向を確認するとともに、高齢者の生活実態を調査し、第９期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定及び高齢者施策の充実に向けた基礎資料とする。

（２）高齢者施策における個別対応等のための資料とする。

（３）要介護者等となるおそれの高い高齢者を把握し、介護予防の啓発や介護予防事業の勧奨等を行うための資料とする。

２　調査の内容

調査名	調査対象	調査期間	調査方法
（1）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	６５歳以上の要介護認定を受けていない方	令和４年１１月３０日 ～令和５年１２月２３日	郵送配布 郵送回収
（2）在宅介護実態調査	在宅で要支援･要介護認定を受けている方	令和４年１１月３０日 ～令和５年１２月２３日	
（3）介護サービス事業所調査	本町の被保険者が利用した十勝管内の介護サービス事業所	令和５年１月１３日 ～令和５年２月３日	
（4）介護支援専門員調査	本町の被保険者を担当している町内の介護支援専門員	令和５年１月１１日 ～令和５年１月２７日	

３　調査票の配布及び回答状況

調査名	対象数	回答数	回収率
（1）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	３，０００人	２，０００人	６６．７％
（2）在宅介護実態調査	３００人	１９５人	６５．０％
（3）介護サービス事業所調査	１７７事業所	１１４事業所	６４．４％
（4）介護支援専門員調査	４６人	３７人	８０．４％

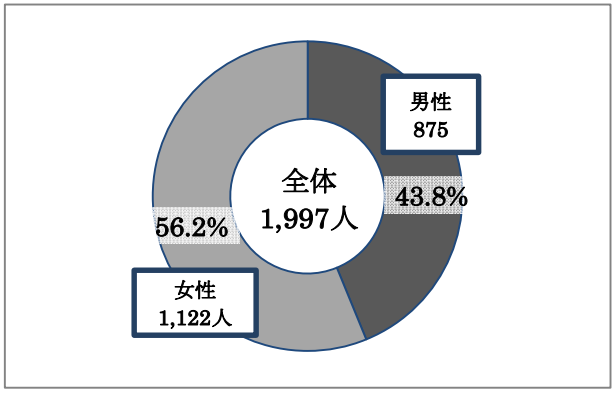
第２章　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

１　属性

（１）性別

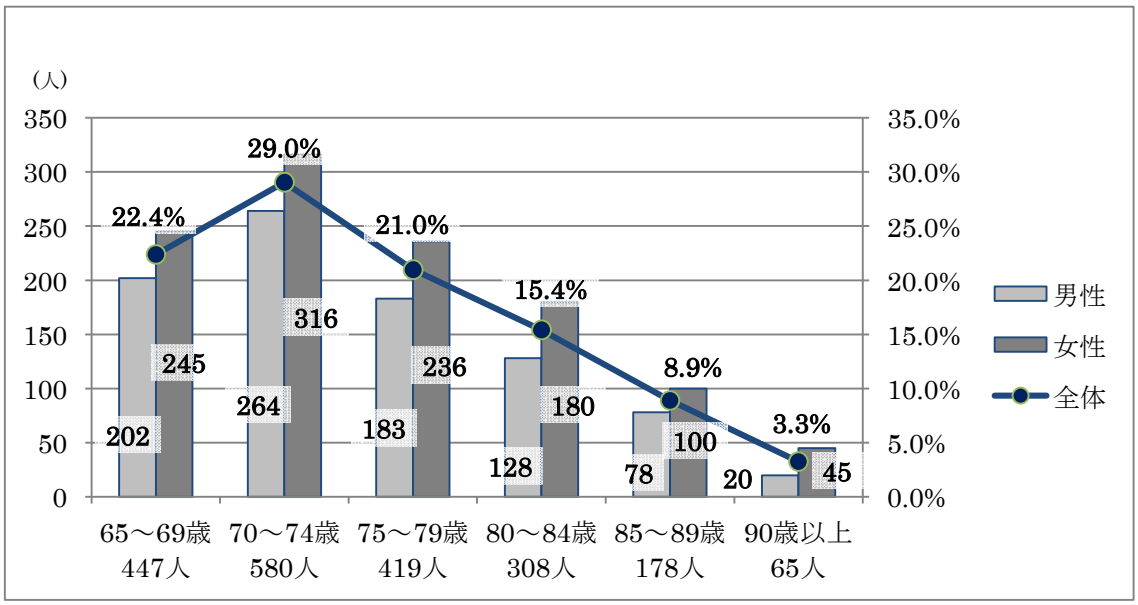
性別をみると、「女性」が５６．２％、「男性」が４３．８％となっている。

※　属性情報との紐付けができなかった調査票（３票）があるため、性別や年齢などのクロス集計における調査数の合計値（１，９９７）は全体の調査数（２，０００）と合致しません。



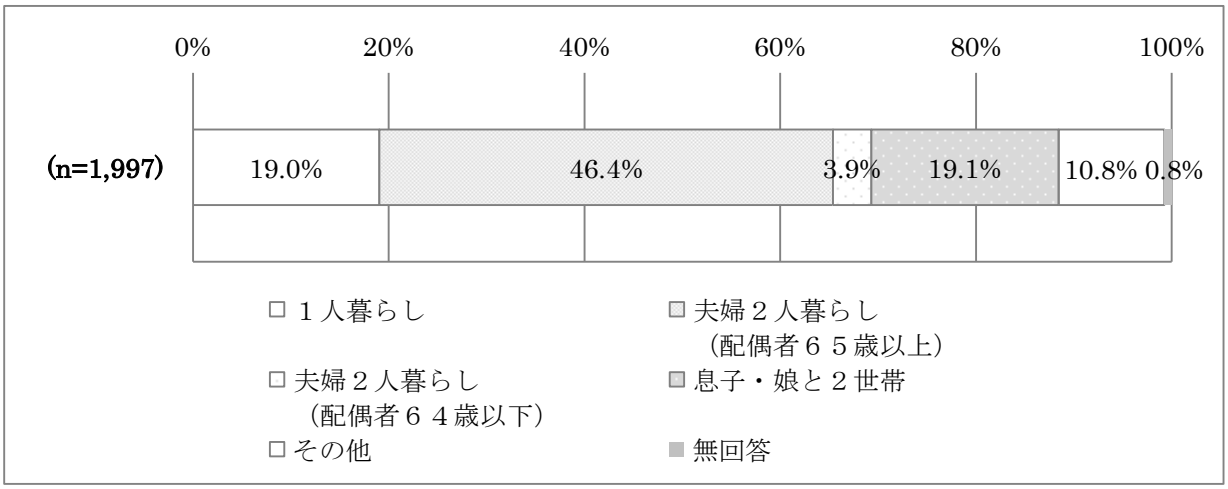
（２）年齢

年齢をみると、「７０～７４歳」が２９．０％で最も多く、次いで「６５～６９歳」（２２．４％)、「７５～７９歳」（２１．０％）となっている。男性は７５歳未満が５３．０％を超えているが、女性は７５歳以上が５０．０％を占めており、女性の方の年齢層が高くなっている。



（３）世帯の状況

世帯の状況をみると、「夫婦２人暮らし（配偶者６５歳以上）」が４６．４％で最も多く、次いで「１人暮らし」（１９．０％）、「息子・娘との２世帯」（１９．１％）となっている。



調査数	1人暮らし	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	夫婦2人暮らし（配偶者64以下）	息子・娘との2世帯	その他	無回答
2,000	380	926	78	382	216	15
100.0%	19.0%	46.4%	3.9%	19.1%	10.8%	0.8%

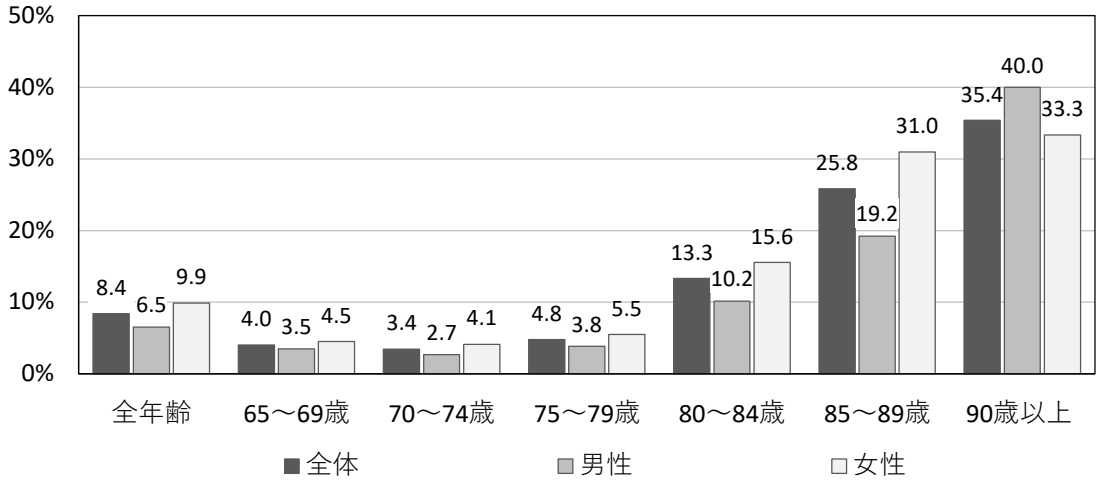
２　要介護リスク

（１）虚弱者割合

全体でみると、８０歳未満は５％を下回っていますが、８０歳以上は年齢が高くなるにつれて虚弱者割合が増加し、９０歳以上は３５．４％となっています。

男女年齢階級別にみても全体と同様の傾向になっていますが、９０歳未満は男性よりも女性の方が虚弱者の割合が高くなっています。

《虚弱者割合》



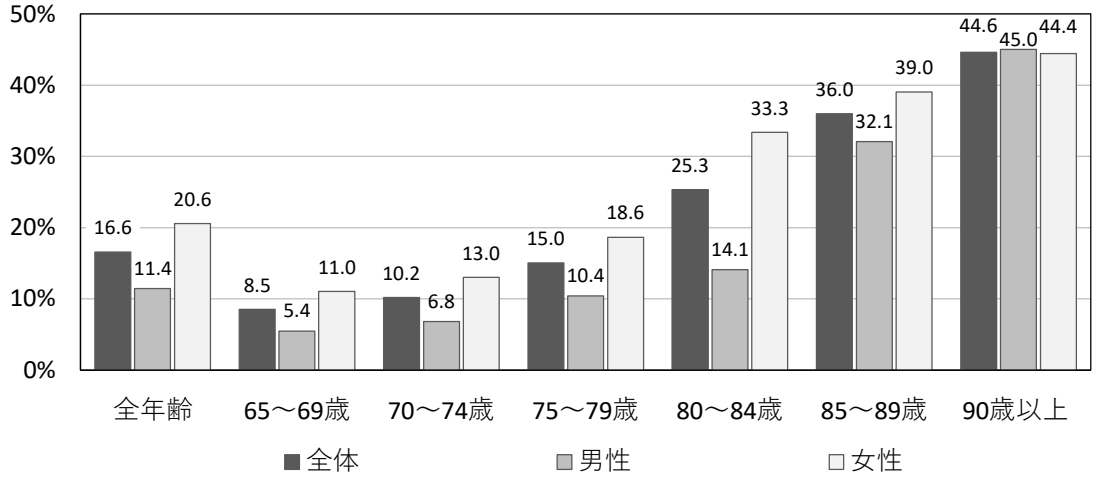
		調査数			リスク該当者		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性
全年齢		2,000 100.0	875 100.0	1,122 100.0	168 8.4	57 6.5	111 9.9
年齢区分	65～69歳	447 100.0	202 100.0	245 100.0	18 4.0	7 3.5	11 4.5
	70～74歳	580 100.0	264 100.0	316 100.0	20 3.4	7 2.7	13 4.1
	75～79歳	419 100.0	183 100.0	236 100.0	20 4.8	7 3.8	13 5.5
	80～84歳	308 100.0	128 100.0	180 100.0	41 13.3	13 10.2	28 15.6
	85～89歳	178 100.0	78 100.0	100 100.0	46 25.8	15 19.2	31 31.0
	90歳以上	65 100.0	20 100.0	45 100.0	23 35.4	8 40.0	15 33.3

（２）運動機能低下者割合

全体でみると、年齢が高くなるにつれてその割合は増加し、９０歳以上は４４．６％となっています。

男女年齢階級別にみると、女性は年齢に比例して運動機能低下者割合が高くなっている一方、男性は８４歳までは加齢に伴う運動機能低下者割合の増加がゆるやかですが、８５歳を超えると大幅に多くなっています。

《運動機能低下者割合》



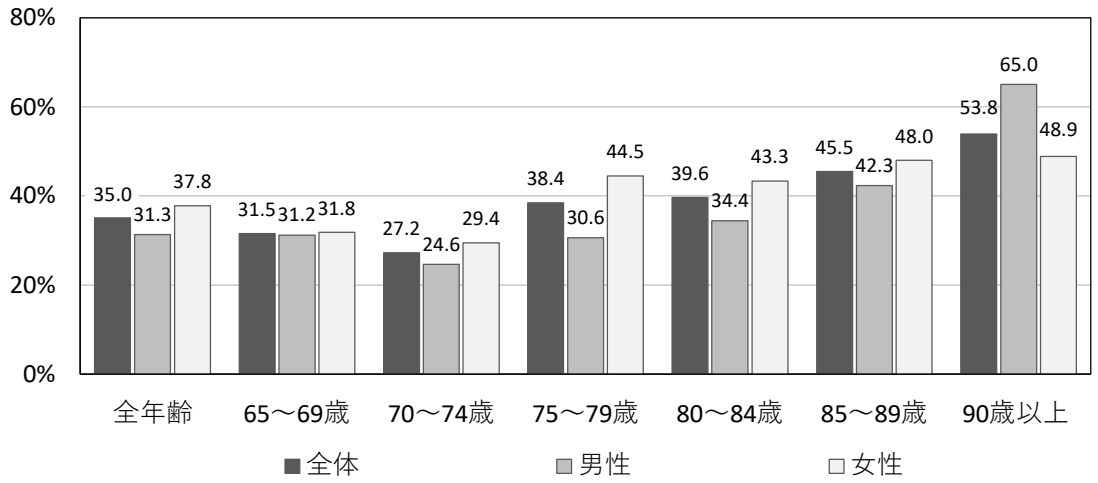
		調査数			リスク該当者		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性
全年齢		2,000 100.0	875 100.0	1,122 100.0	332 16.6	100 11.4	231 20.6
年齢区分	65～69歳	447 100.0	202 100.0	245 100.0	38 8.5	11 5.4	27 11.0
	70～74歳	580 100.0	264 100.0	316 100.0	59 10.2	18 6.8	41 13.0
	75～79歳	419 100.0	183 100.0	236 100.0	63 15.0	19 10.4	44 18.6
	80～84歳	308 100.0	128 100.0	180 100.0	78 25.3	18 14.1	60 33.3
	85～89歳	178 100.0	78 100.0	100 100.0	64 36.0	25 32.1	39 39.0
	90歳以上	65 100.0	20 100.0	45 100.0	29 44.6	9 45.0	20 44.4

（３）過去１年間での転倒がある人の割合

全体でみると、６５～７４歳は３０％前後となっていますが、７５～７９歳は３８．４％に増加し、以降は年齢が高くなるにつれて増加しています。

男女年齢階級別にみても全体と同様の傾向になっていますが、女性は多くの年齢階級で男性よりも転倒がある人の割合が高くなっています。

《過去1年間での転倒がある人の割合》



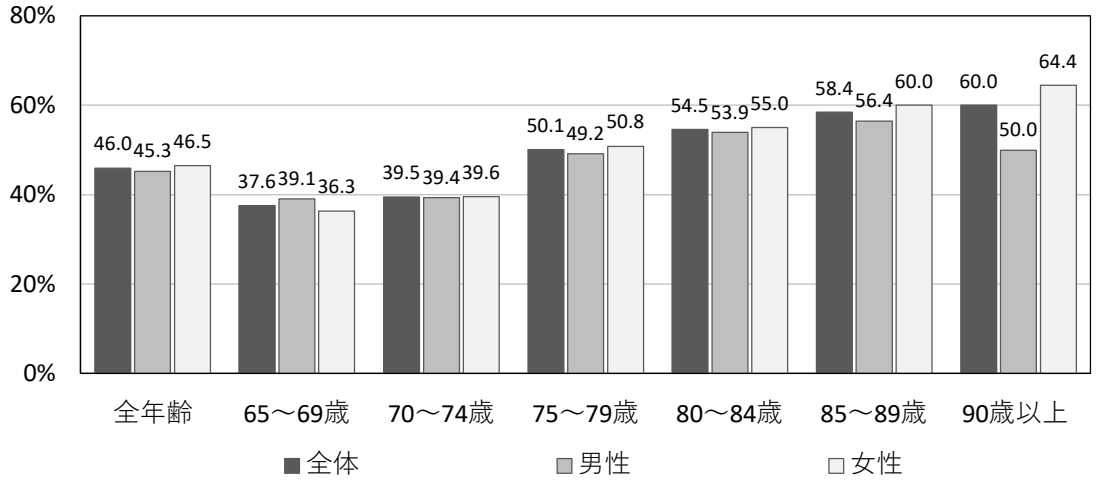
		調査数			リスク該当者		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性
全年齢		2,000 100.0	875 100.0	1,122 100.0	700 35.0	274 31.3	424 37.8
年齢区分	65～69歳	447 100.0	202 100.0	245 100.0	141 31.5	63 31.2	78 31.8
	70～74歳	580 100.0	264 100.0	316 100.0	158 27.2	65 24.6	93 29.4
	75～79歳	419 100.0	183 100.0	236 100.0	161 38.4	56 30.6	105 44.5
	80～84歳	308 100.0	128 100.0	180 100.0	122 39.6	44 34.4	78 43.3
	85～89歳	178 100.0	78 100.0	100 100.0	81 45.5	33 42.3	48 48.0
	90歳以上	65 100.0	20 100.0	45 100.0	35 53.8	13 65.0	22 48.9

（４）物忘れが多い人の割合

全体でみると、６５～６９歳の３７．６％から９０歳の６０．０％まで、年齢が高くなるにつれてその割合がゆるやかに高くなっています。

男女年齢階級別にみても全体とほぼ同様の傾向となっています。

《物忘れが多い人の割合》



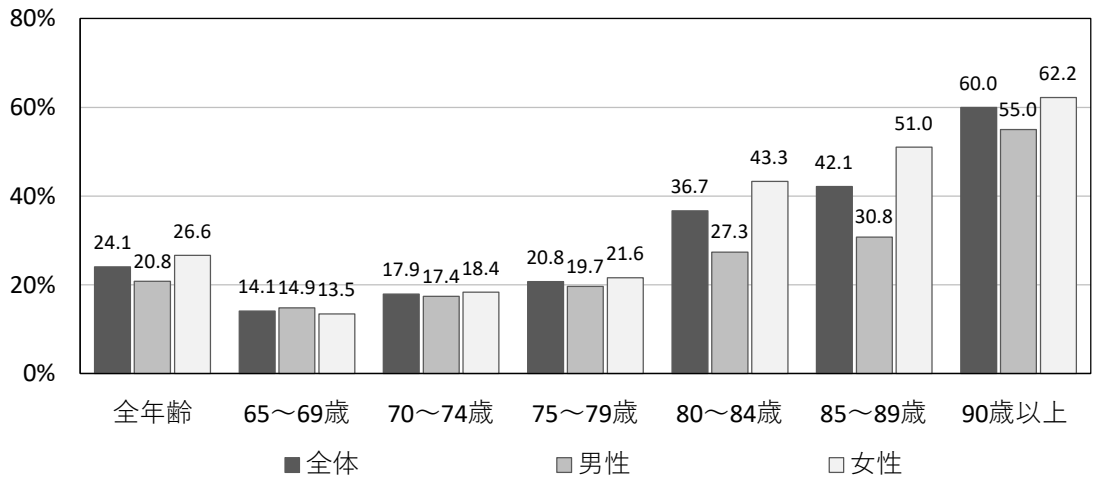
		調査数			リスク該当者		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性
全年齢		2,000 100.0	875 100.0	1,122 100.0	920 46.0	396 45.3	522 46.5
年齢区分	65～69歳	447 100.0	202 100.0	245 100.0	168 37.6	79 39.1	89 36.3
	70～74歳	580 100.0	264 100.0	316 100.0	229 39.5	104 39.4	125 39.6
	75～79歳	419 100.0	183 100.0	236 100.0	210 50.1	90 49.2	120 50.8
	80～84歳	308 100.0	128 100.0	180 100.0	168 54.5	69 53.9	99 55.0
	85～89歳	178 100.0	78 100.0	100 100.0	104 58.4	44 56.4	60 60.0
	90歳以上	65 100.0	20 100.0	45 100.0	39 60.0	10 50.0	29 64.4

（５）閉じこもり傾向にある人の割合

全体でみると、８０～８４歳から加齢による増加が大きくなり、９０歳以上は６０．０％となっています。

男女年齢階級別にみると、女性は全体と同様の傾向になっていますが、男性は９０歳未満までは加齢による増加がゆるやかになっています。

《閉じこもり傾向にある人の割合》



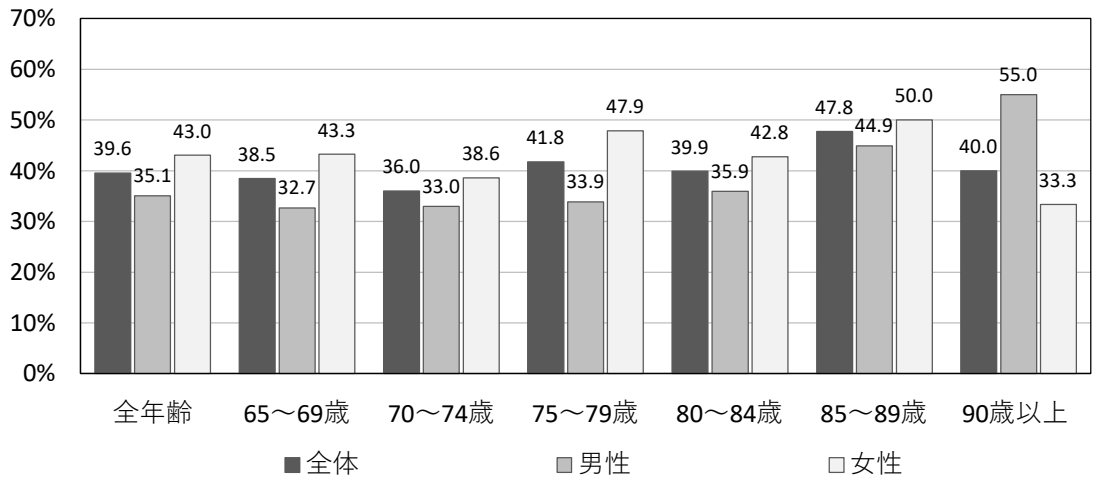
		調査数			リスク該当者		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性
全年齢		2,000 100.0	875 100.0	1,122 100.0	481 24.1	182 20.8	299 26.6
年齢区分	65～69歳	447 100.0	202 100.0	245 100.0	63 14.1	30 14.9	33 13.5
	70～74歳	580 100.0	264 100.0	316 100.0	104 17.9	46 17.4	58 18.4
	75～79歳	419 100.0	183 100.0	236 100.0	87 20.8	36 19.7	51 21.6
	80～84歳	308 100.0	128 100.0	180 100.0	113 36.7	35 27.3	78 43.3
	85～89歳	178 100.0	78 100.0	100 100.0	75 42.1	24 30.8	51 51.0
	90歳以上	65 100.0	20 100.0	45 100.0	39 60.0	11 55.0	28 62.2

（６）うつ傾向にある人の割合

全体でみると、年齢階級によりばらつきがあるものの、年齢が高くなるにつれて増加している傾向がみられます。

男女年齢階級別にみると、多くの年齢階級で男性よりも女性の方がうつ傾向にある人の割合が高くなっています。

《うつ傾向にある人の割合》



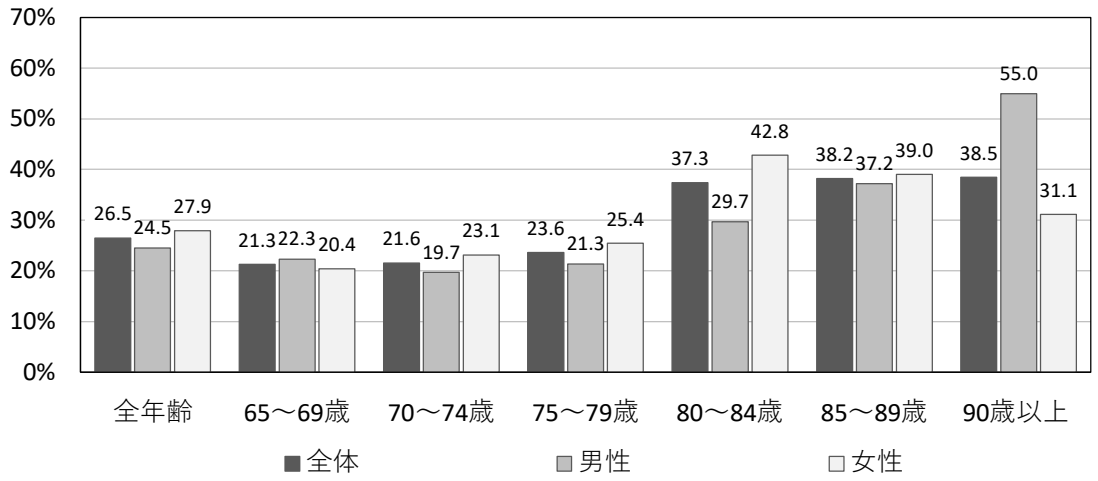
		調査数			リスク該当者		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性
全年齢		2,000 100.0	875 100.0	1,122 100.0	791 39.6	307 35.1	483 43.0
年齢区分	65～69歳	447 100.0	202 100.0	245 100.0	172 38.5	66 32.7	106 43.3
	70～74歳	580 100.0	264 100.0	316 100.0	209 36.0	87 33.0	122 38.6
	75～79歳	419 100.0	183 100.0	236 100.0	175 41.8	62 33.9	113 47.9
	80～84歳	308 100.0	128 100.0	180 100.0	123 39.9	46 35.9	77 42.8
	85～89歳	178 100.0	78 100.0	100 100.0	85 47.8	35 44.9	50 50.0
	90歳以上	65 100.0	20 100.0	45 100.0	26 40.0	11 55.0	15 33.3

（７）口腔機能低下者割合

全体でみると、８０歳未満は２５％を下回っている状況ですが、８０歳以上は４０％弱まで増加しています。

男女年齢階級別にみると、８０歳以上の男性は年齢が高くなるにつれて増加し、８０歳以上は５５．０％となっています。女性は８０～８４歳で口腔機能低下者割合が４２．８％と多く、８５歳以上はその割合を下回っている状況です。

《口腔機能低下者割合》



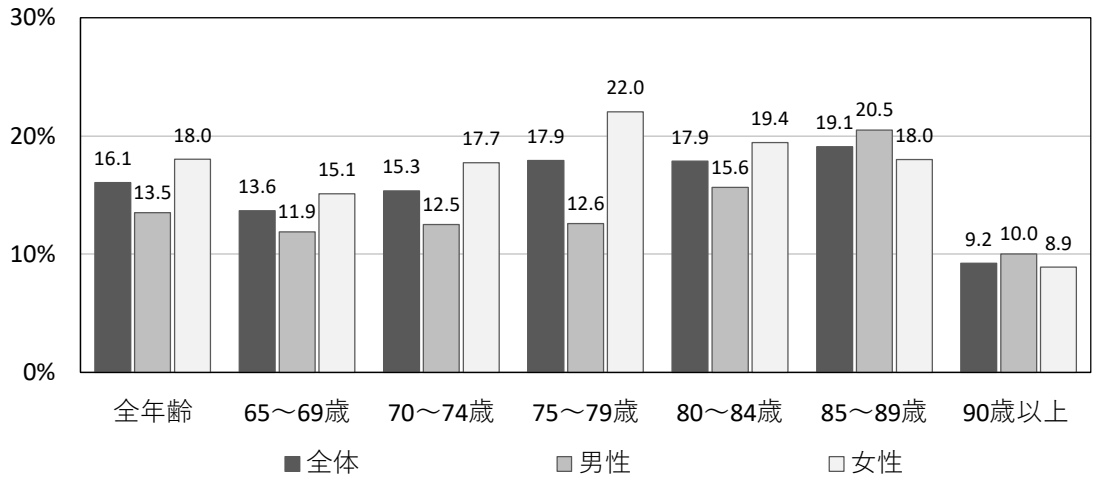
		調査数			リスク該当者		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性
全年齢		2,000 100.0	875 100.0	1,122 100.0	529 26.5	214 24.5	313 27.9
年齢区分	65～69歳	447 100.0	202 100.0	245 100.0	95 21.3	45 22.3	50 20.4
	70～74歳	580 100.0	264 100.0	316 100.0	125 21.6	52 19.7	73 23.1
	75～79歳	419 100.0	183 100.0	236 100.0	99 23.6	39 21.3	60 25.4
	80～84歳	308 100.0	128 100.0	180 100.0	115 37.3	38 29.7	77 42.8
	85～89歳	178 100.0	78 100.0	100 100.0	68 38.2	29 37.2	39 39.0
	90歳以上	65 100.0	20 100.0	45 100.0	25 38.5	11 55.0	14 31.1

（８）趣味の集まりに参加している人の割合

全体でみると、８５～８９歳が１９．１％で最も高くなっています。

男女年齢階級別に趣味の集まりに参加している人の割合をみると、男性は８５～８９歳の２０．５％、女性は７５～７９歳の２２．０％がそれぞれ最も高くなっています。

《趣味の集まりに参加している人の割合》



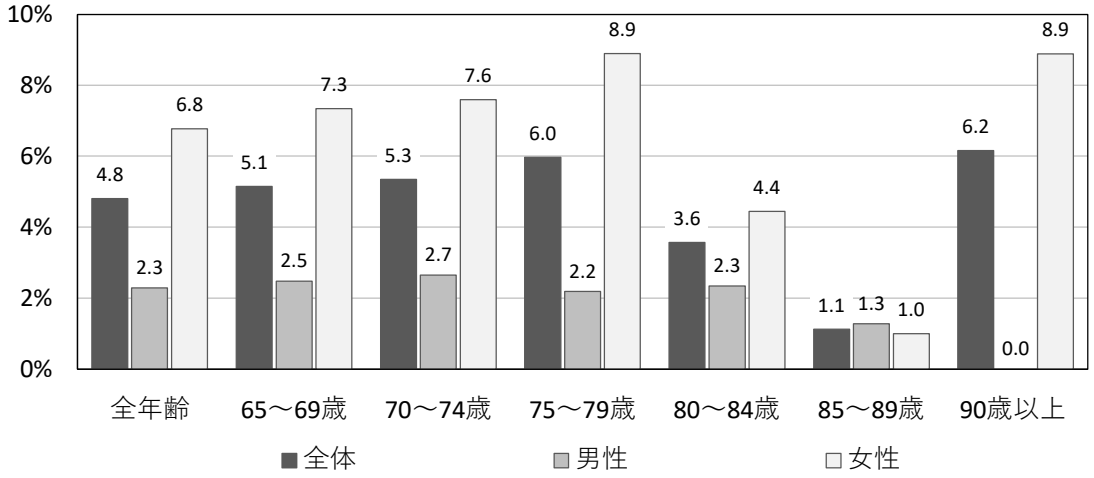
		調査数			リスク該当者		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性
全年齢		2,000 100.0	875 100.0	1,122 100.0	321 16.1	118 13.5	202 18.0
年齢区分	65～69歳	447 100.0	202 100.0	245 100.0	61 13.6	24 11.9	37 15.1
	70～74歳	580 100.0	264 100.0	316 100.0	89 15.3	33 12.5	56 17.7
	75～79歳	419 100.0	183 100.0	236 100.0	75 17.9	23 12.6	52 22.0
	80～84歳	308 100.0	128 100.0	180 100.0	55 17.9	20 15.6	35 19.4
	85～89歳	178 100.0	78 100.0	100 100.0	34 19.1	16 20.5	18 18.0
	90歳以上	65 100.0	20 100.0	45 100.0	6 9.2	2 10.0	4 8.9

（９）学習・教養サークルの集まりに参加している人の割合

全体でみると、８０歳未満までは５％前後となっていますが、８０～８９歳でその割合が低くなり、９０歳以上で高くなっています。

男女年齢階級別に学習・教養サークルの集まりに参加している人の割合をみると、男性は女性よりも低い年齢階級が多く、いずれの年齢階級でも３％を下回っていますが、女性は７５～７９歳及び９０歳以上（ともに８．９％）でその割合が高くなっています。

《学習･教養サークルの集まりに参加している人の割合》



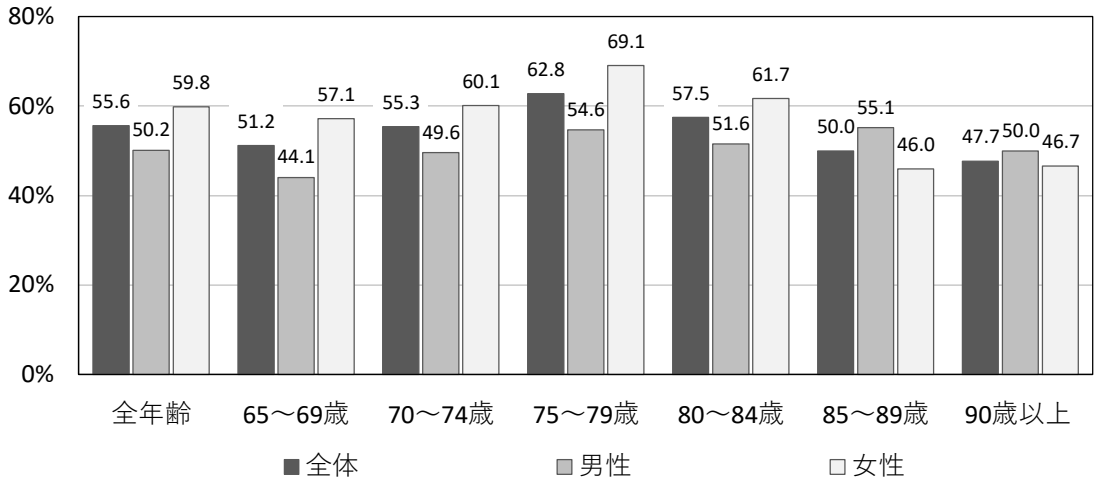
		調査数			リスク該当者		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性
全年齢		2,000 100.0	875 100.0	1,122 100.0	96 4.8	20 2.3	76 6.8
年齢区分	65～69歳	447 100.0	202 100.0	245 100.0	23 5.1	5 2.5	18 7.3
	70～74歳	580 100.0	264 100.0	316 100.0	31 5.3	7 2.7	24 7.6
	75～79歳	419 100.0	183 100.0	236 100.0	25 6.0	4 2.2	21 8.9
	80～84歳	308 100.0	128 100.0	180 100.0	11 3.6	3 2.3	8 4.4
	85～89歳	178 100.0	78 100.0	100 100.0	2 1.1	1 1.3	1 1.0
	90歳以上	65 100.0	20 100.0	45 100.0	4 6.2	0 0.0	4 8.9

（１０）友人や知人と会う頻度が多い人の割合

全体でみると、８０歳未満は年齢が高くなるにつれて増加していますが、８０歳以降は加齢とともに低くなっています。

男女年齢階級別に友人や知人と会う頻度が多い人の割合をみると、６５～８４歳までは男性よりも女性の方が高く、８５歳以上は男性の方が女性よりもわずかに高くなっています。

《友人や知人と会う頻度が多い人の割合》

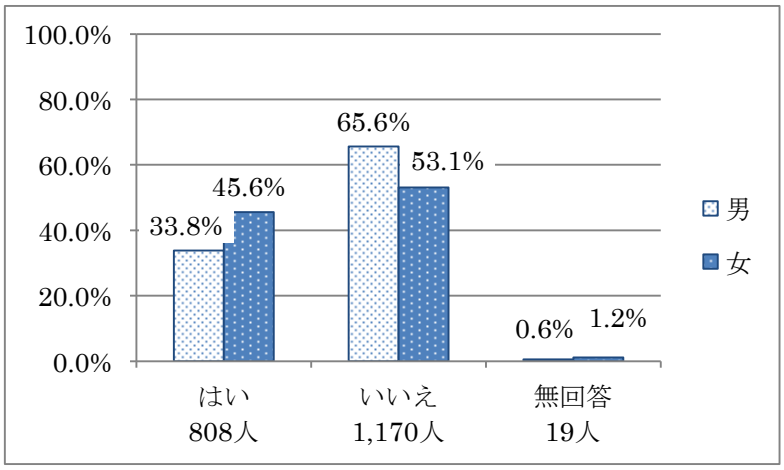


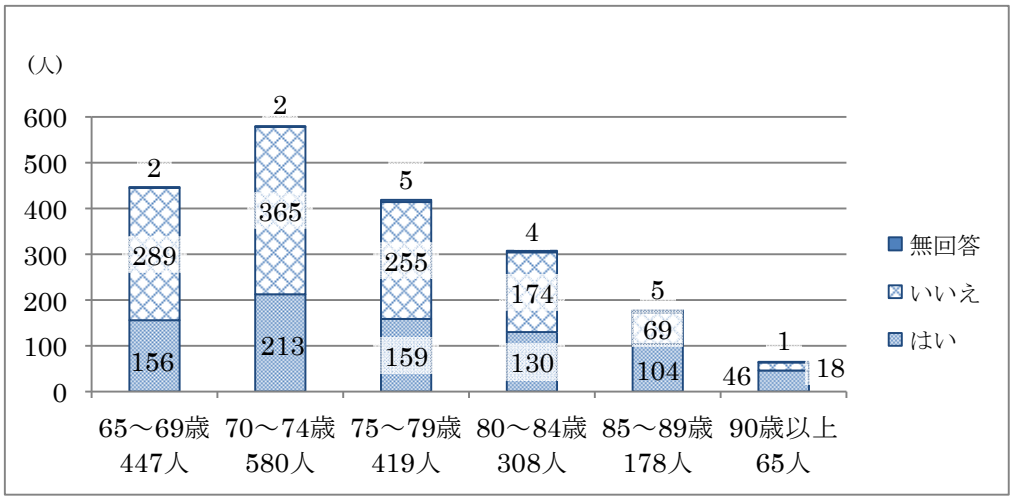
		調査数			リスク該当者		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性
全年齢		2,000 100.0	875 100.0	1,122 100.0	1,111 55.6	439 50.2	671 59.8
年齢区分	65～69歳	447 100.0	202 100.0	245 100.0	229 51.2	89 44.1	140 57.1
	70～74歳	580 100.0	264 100.0	316 100.0	321 55.3	131 49.6	190 60.1
	75～79歳	419 100.0	183 100.0	236 100.0	263 62.8	100 54.6	163 69.1
	80～84歳	308 100.0	128 100.0	180 100.0	177 57.5	66 51.6	111 61.7
	85～89歳	178 100.0	78 100.0	100 100.0	89 50.0	43 55.1	46 46.0
	90歳以上	65 100.0	20 100.0	45 100.0	31 47.7	10 50.0	21 46.7

（１１）外出を控えていますか

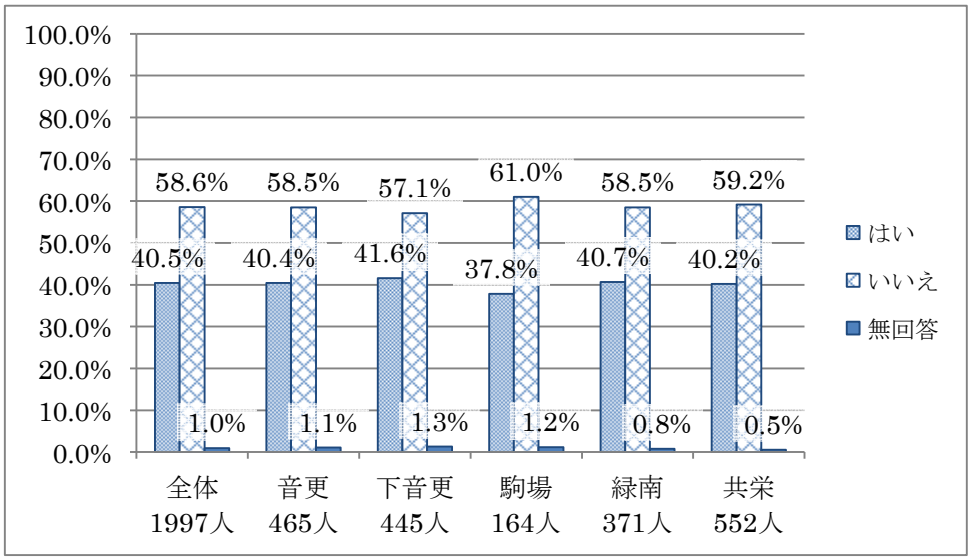
年齢が高くなるのに比例して、外出を控えている傾向にある。「外出を控えている」と回答したのは全体の４０．５％で、新型コロナウイルス感染症の影響もあって約２倍に増加している。

◯性別及び年齢別



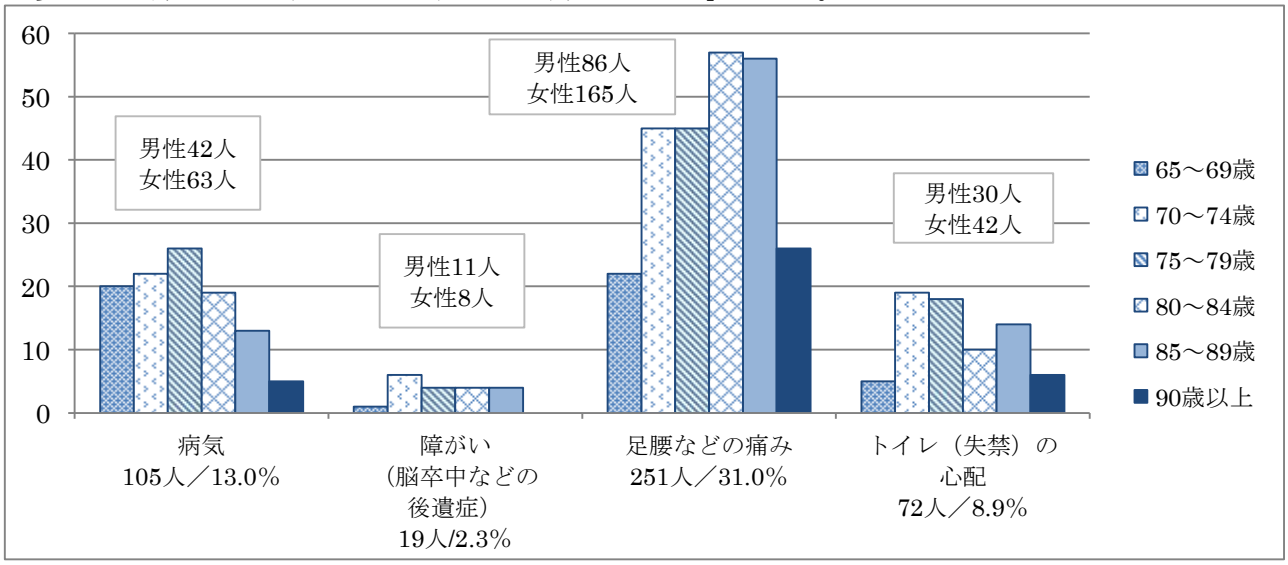


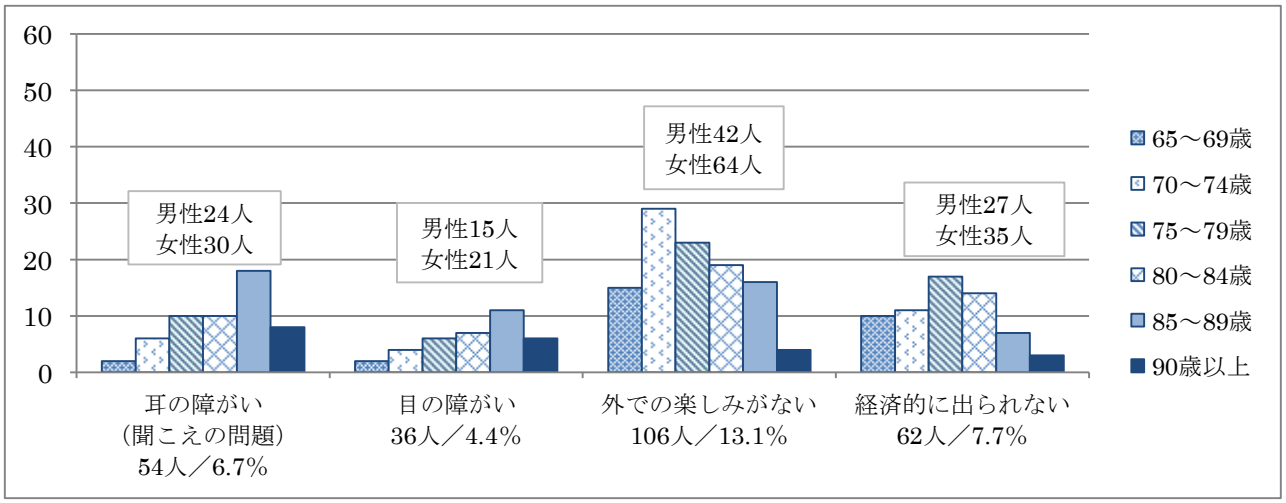
◯中学校区別

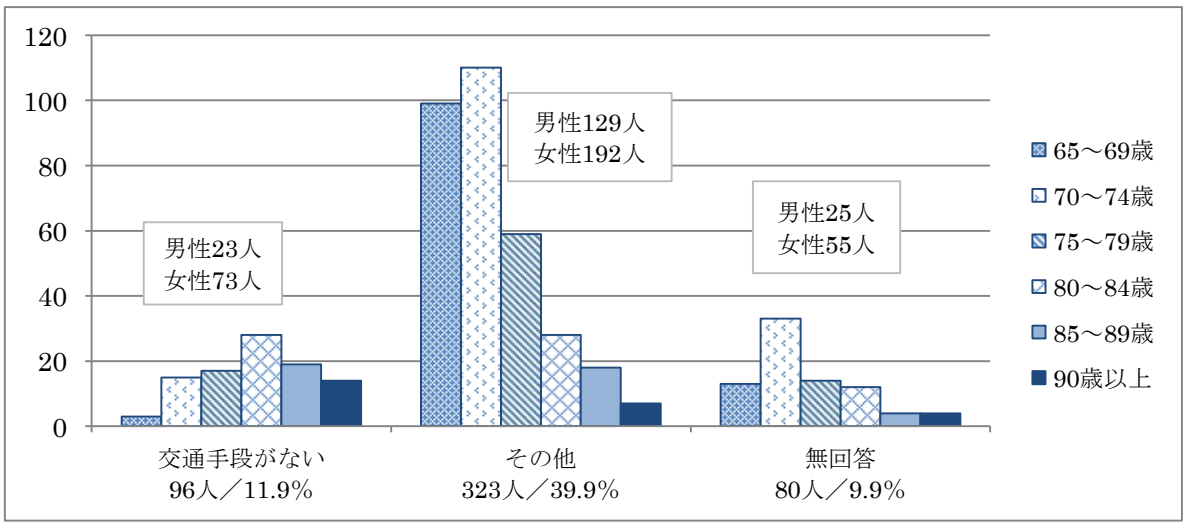


（１２）外出を控える理由は

外出を控える理由の多くは「足腰などの痛み」３１．０％、「外での楽しみがない」１３．１％、「病気」１３．０％、「交通手段がない」が１１．９％となっている。「その他」と回答した理由の多くは「新型コロナウイルス感染症の感染防止のため」である。



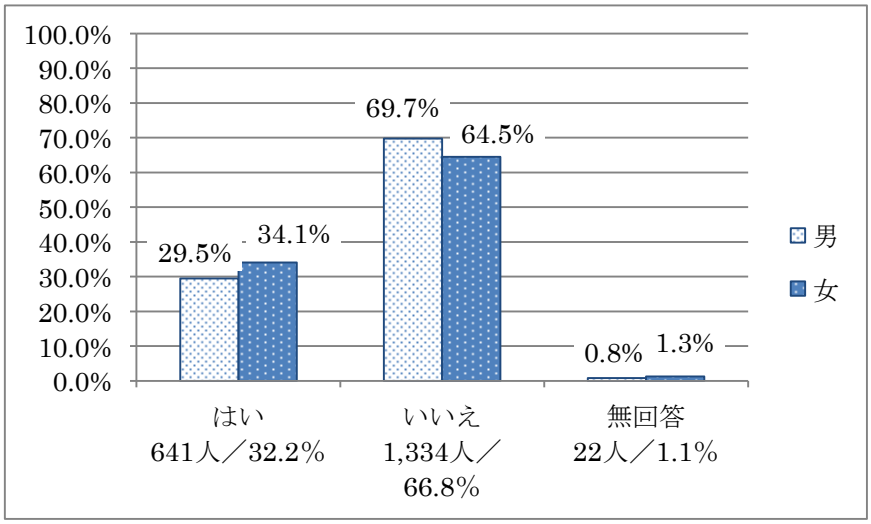


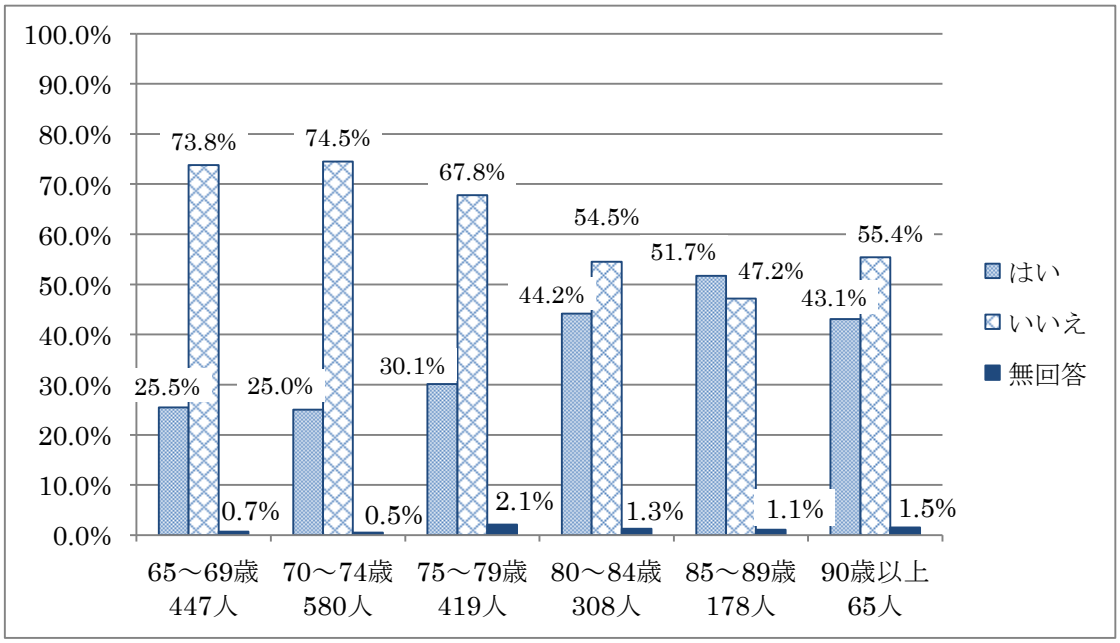


（１３）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

全体の約３人に１人が半年前に比べて固いものが食べにくくなったと回答している。

〇性別及び年齢別

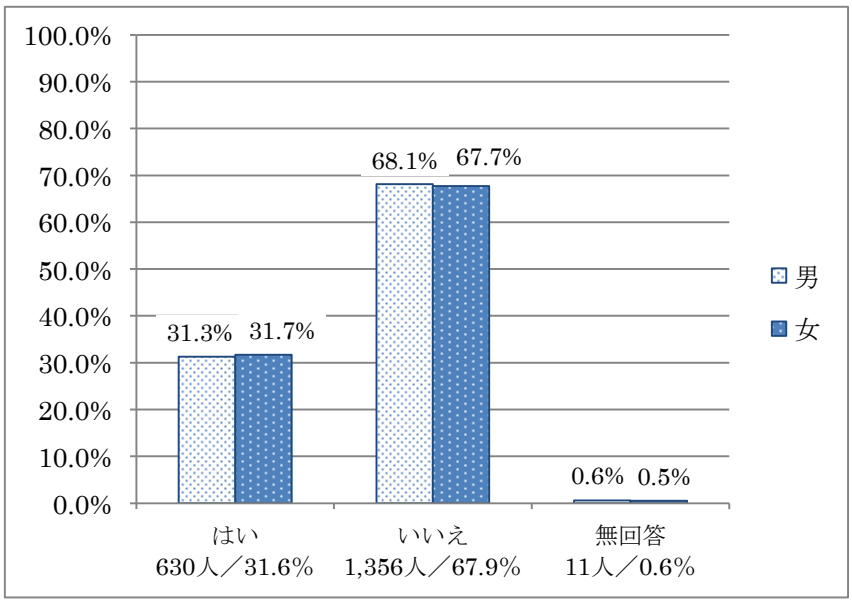


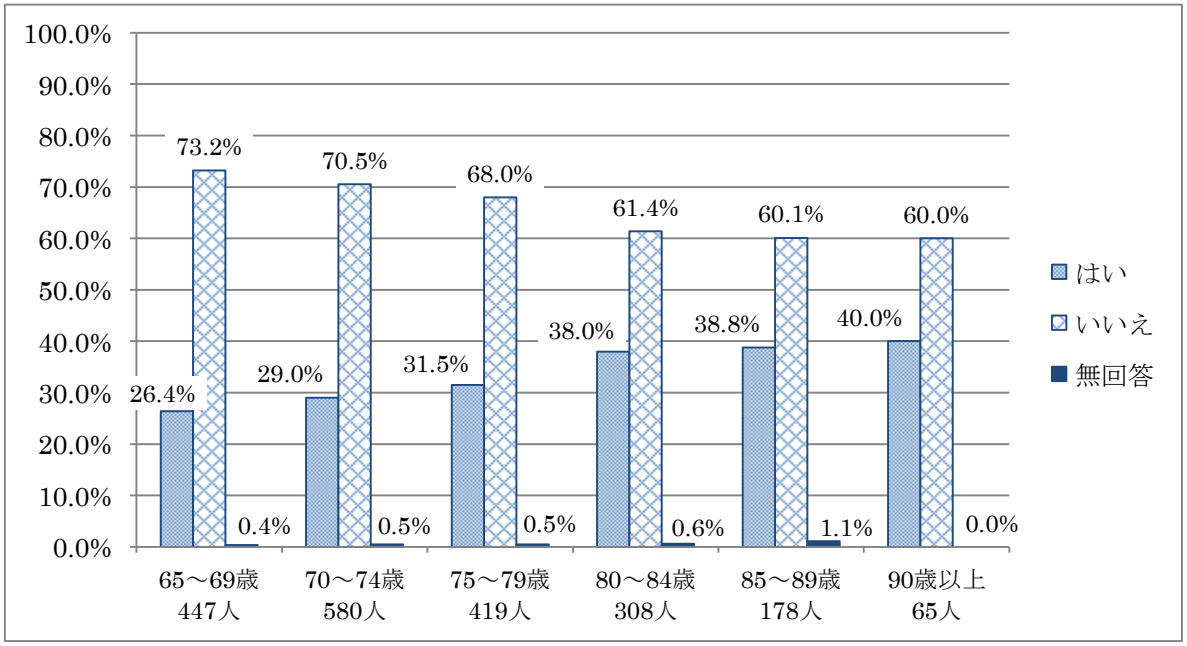


（１４）お茶や汁物等でむせることがありますか。

全体で約３割の方がお茶や汁物等でむせることがあり、「６５～６９歳」、「７０～７４歳」が２割台で、「７５～７９歳」から「９０歳以上」までで３割以上となっている。

◯性別及び年齢別

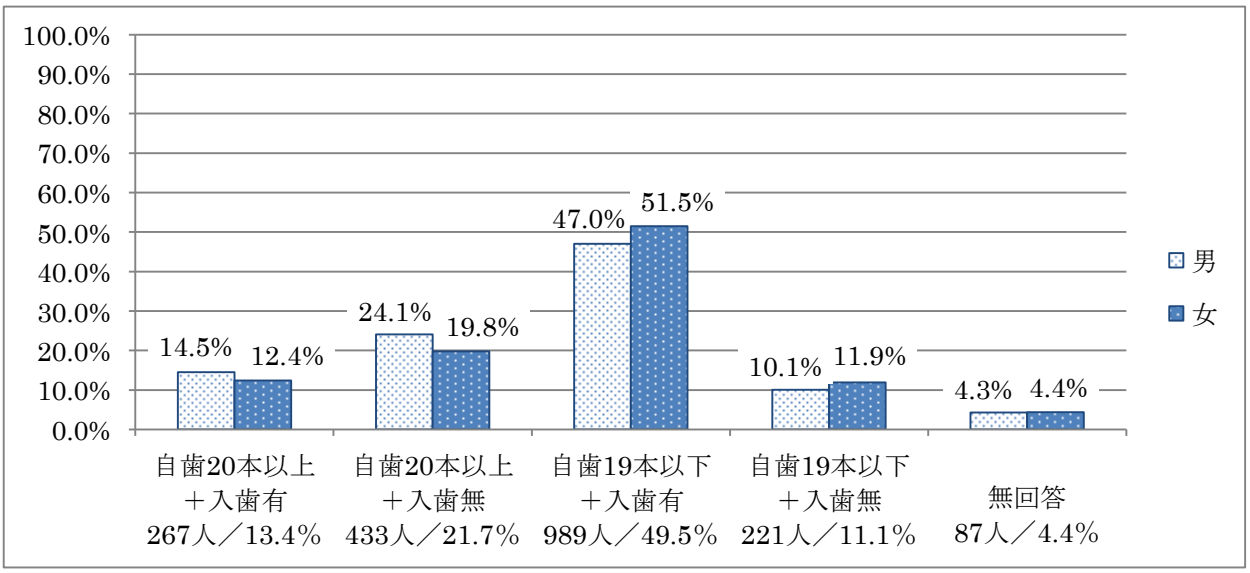


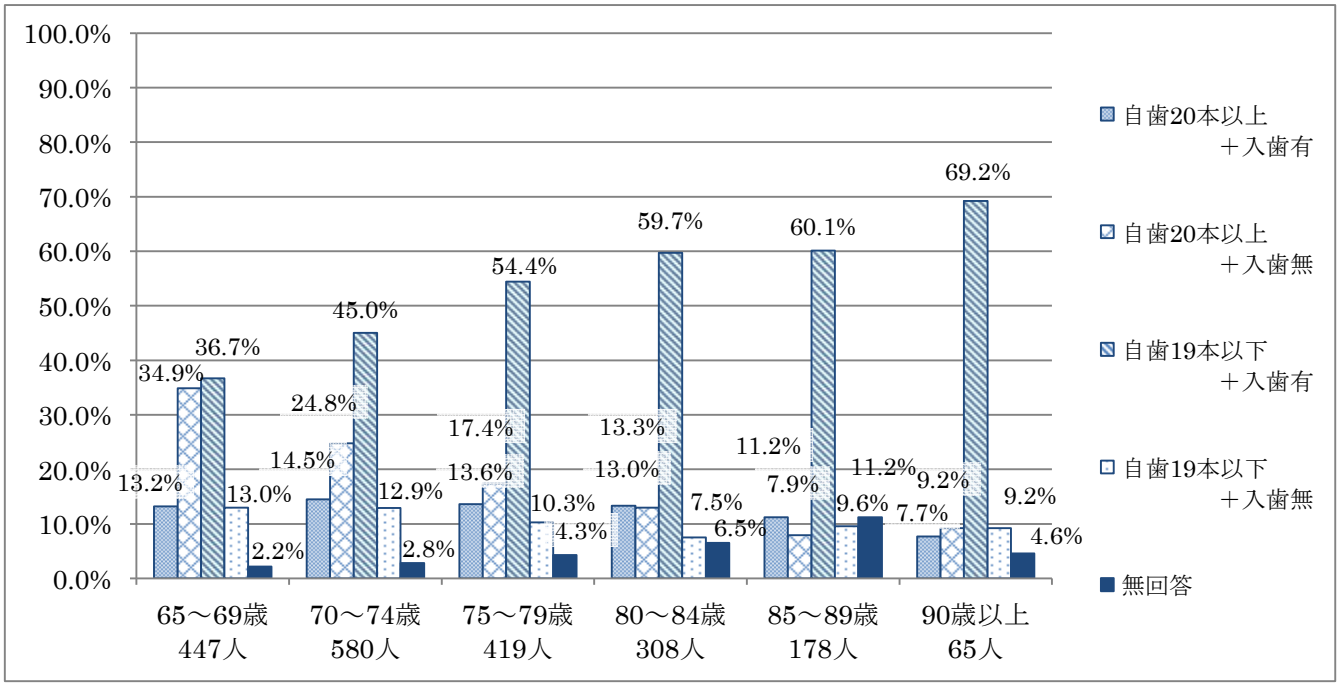


（１５）歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。

自歯２０本以上の方は年齢が高くなるのに比例して割合が減少している。入れ歯を利用している方は「６５～６９歳」で４９．９％に対し、「７０～７４歳」で５９．５％と大きく増加している。

〇性別及び年齢別

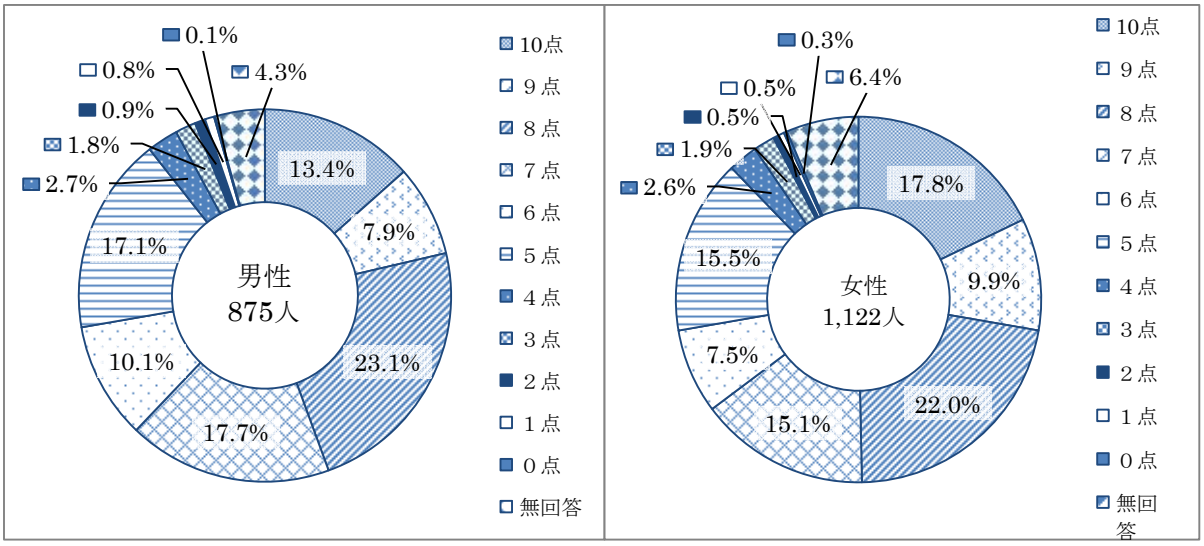


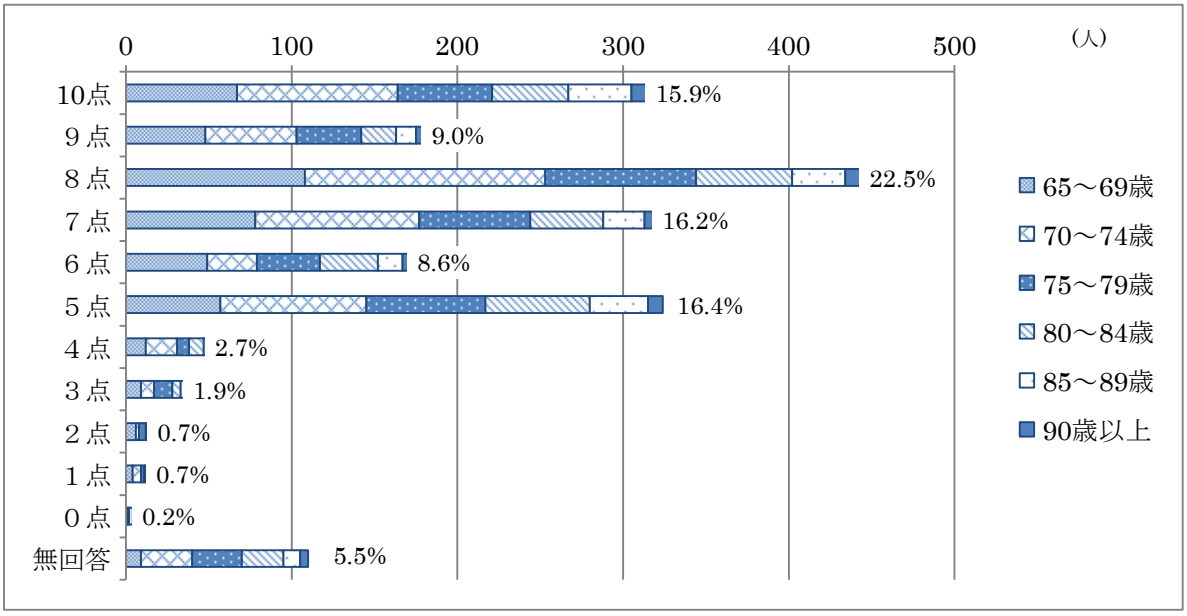


（１６）あなたは、現在どの程度幸せですか。

８点以上の方が４７．４％、５点以上の方を合わせると８８．６％の方が幸せと感じている。

また、男女別にみても５点以上で男性が８９．３％、女性が８７．８％となっており、特に女性の８点以上の方が４９．７％と概ね半数の方が幸せを感じている。



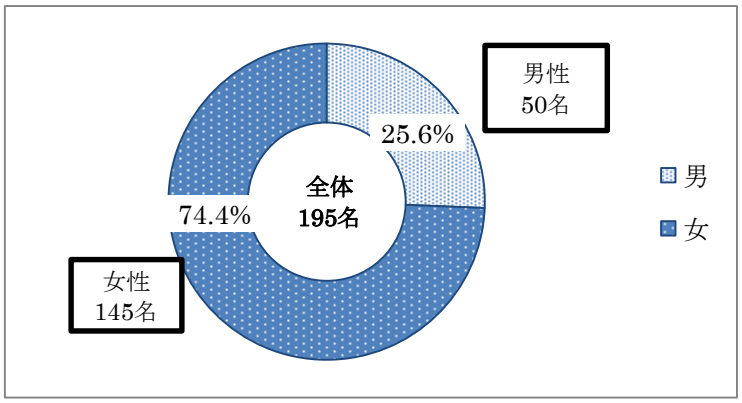


※10 点が「とても幸せ」で、0 点が「とても不幸」を指標とする。

第３章　在宅介護実態調査

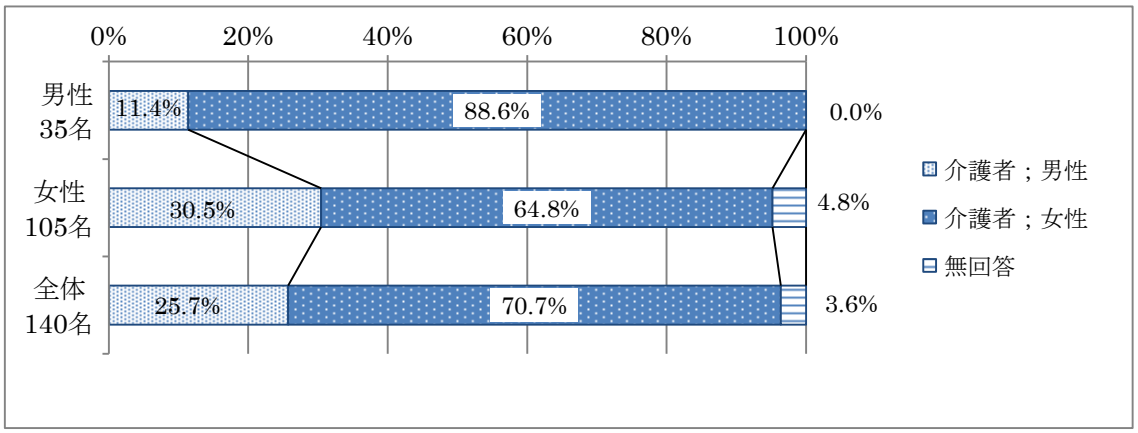
１　属性

（１）性別



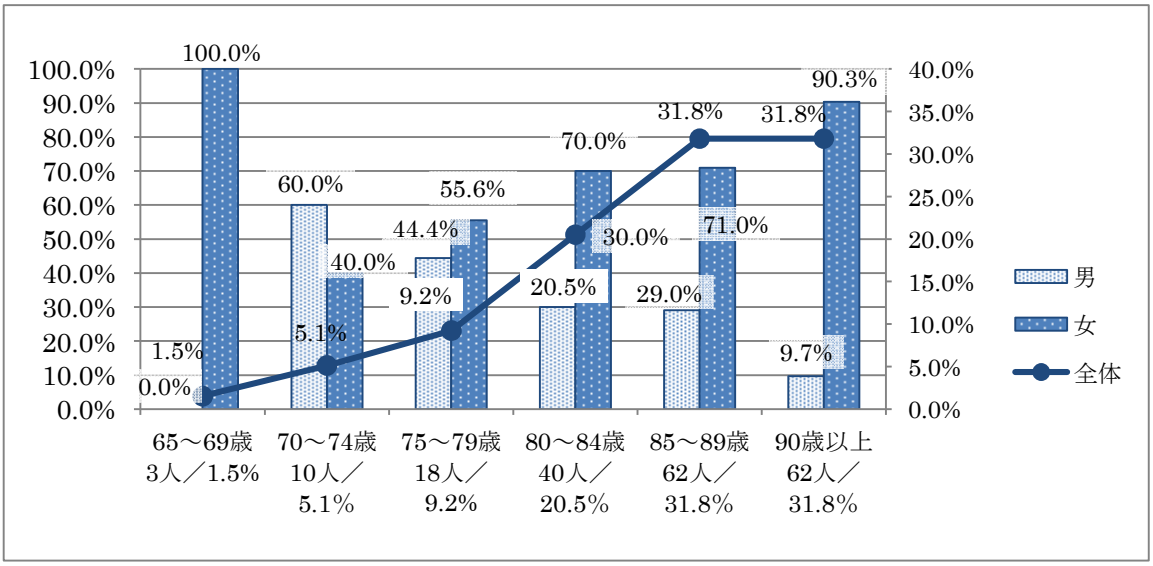
○家族や親族からの介護があると回答した方の内訳

性別をみると、男性が２５．７％、女性が７０．７％と女性の介護者が多くなっている。



（２）年齢

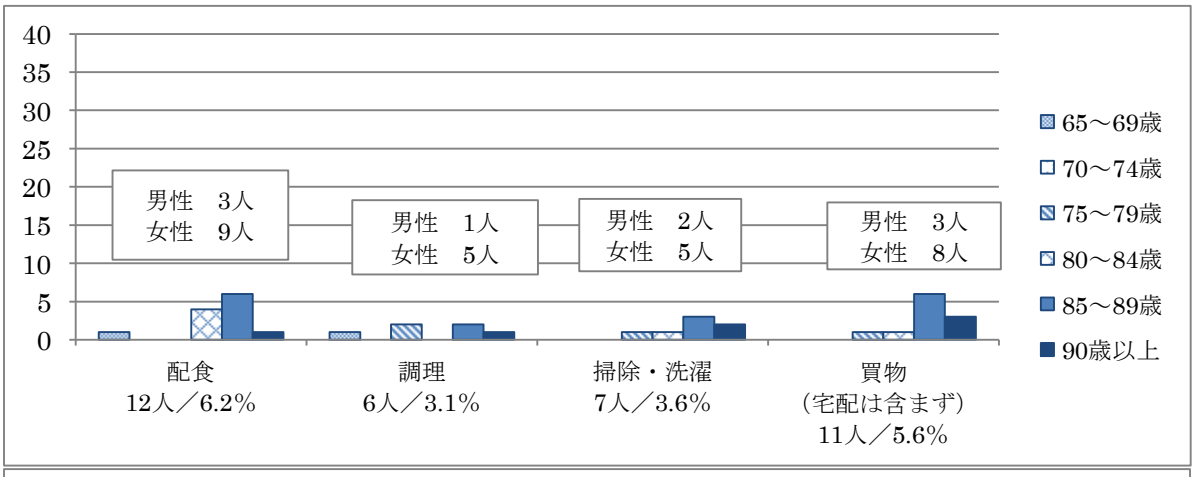
年齢をみると、「８５～８９歳」、「９０歳以上」がそれぞれ３１．８％で最も多く、次いで「８０～８４歳」（２０．５％）となっている。また、８０歳以上の男性が２１．５％、女性が７５．０％となっている。

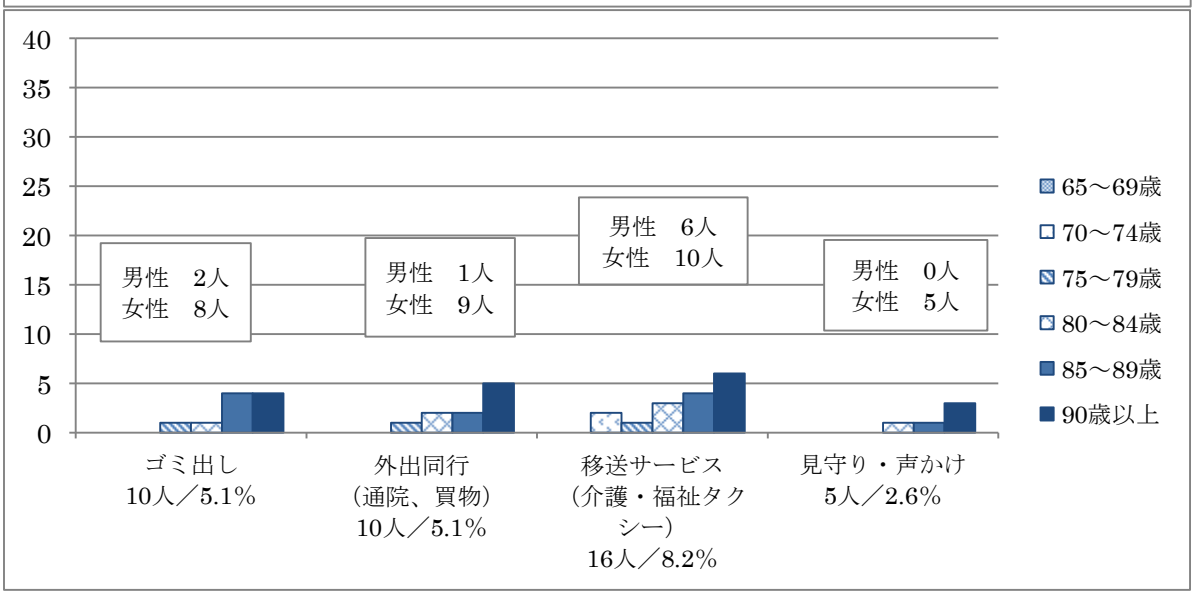


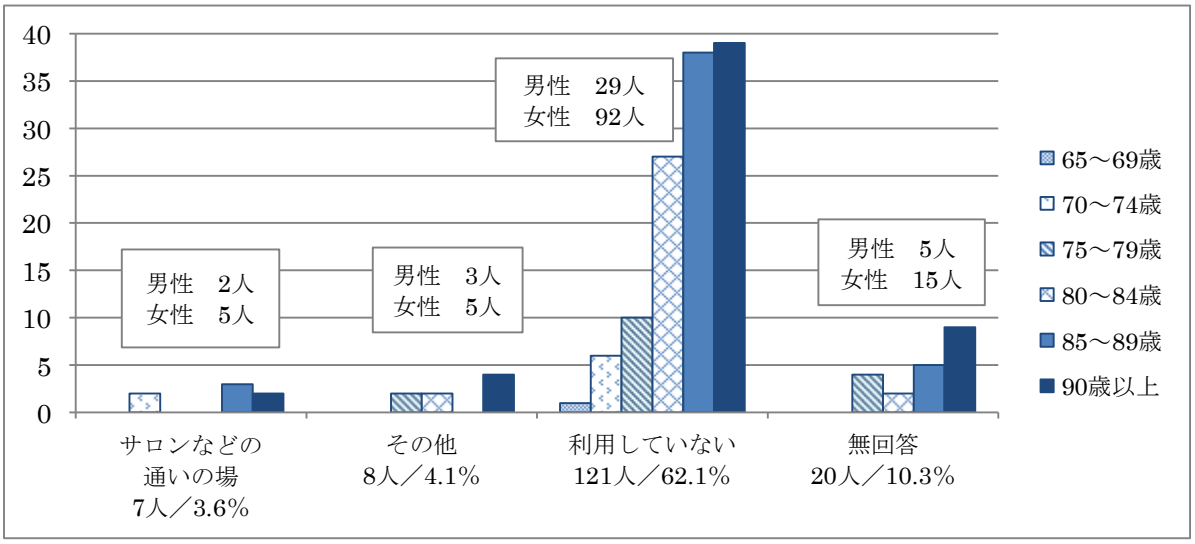
2　設問項目から見える在宅介護の状況について

（１）介護保険以外の支援やサービス利用状況について

約３割の方が介護保険制度以外の移送サービスや掃除・洗濯、外出同行、買物のサービスを活用している。

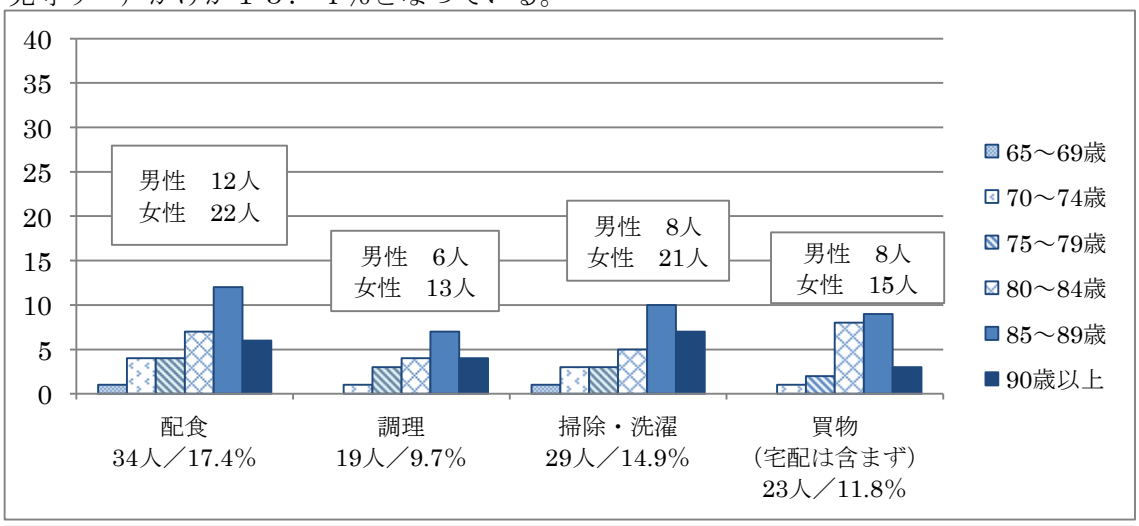


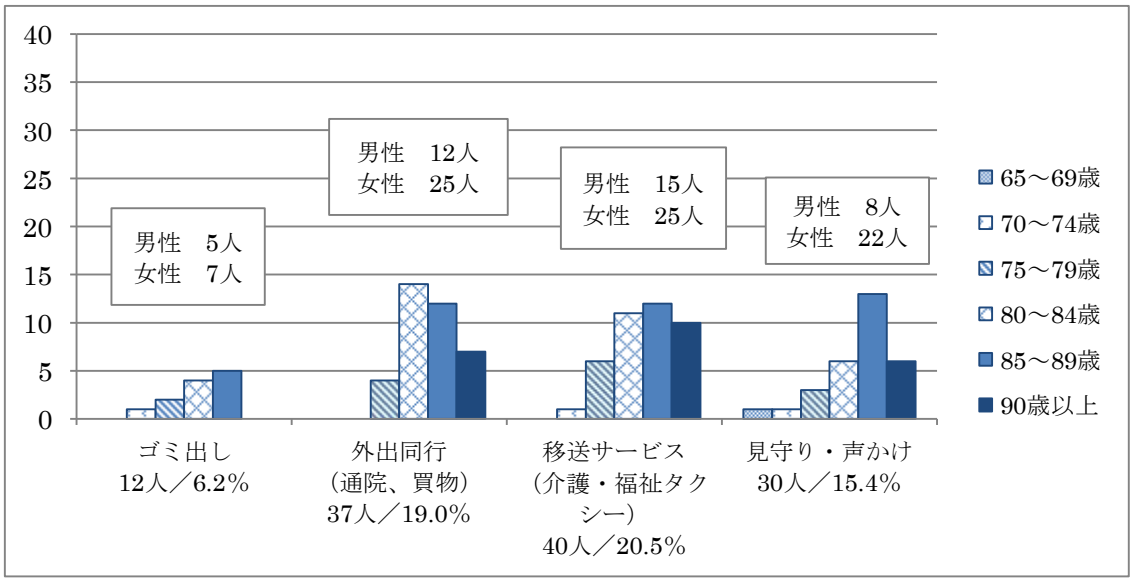


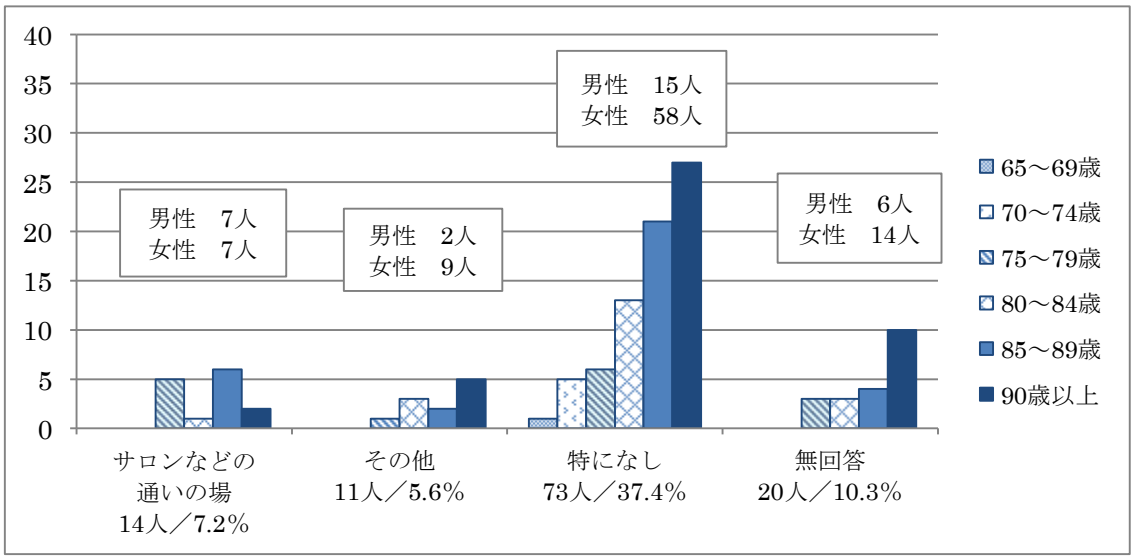


（２）今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて

移送サービス（介護タクシー等）が２０．５％、次いで外出同行（通院、買物）が１９．０％、見守り・声かけが１５．４％となっている。

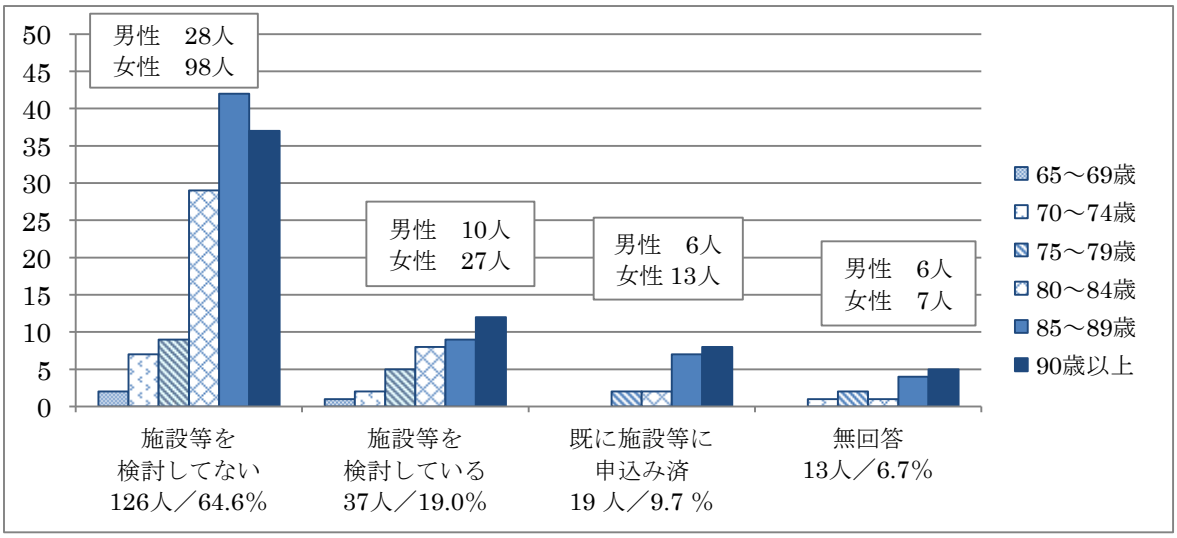






（３）現時点での施設等への入所・入居の検討状況について

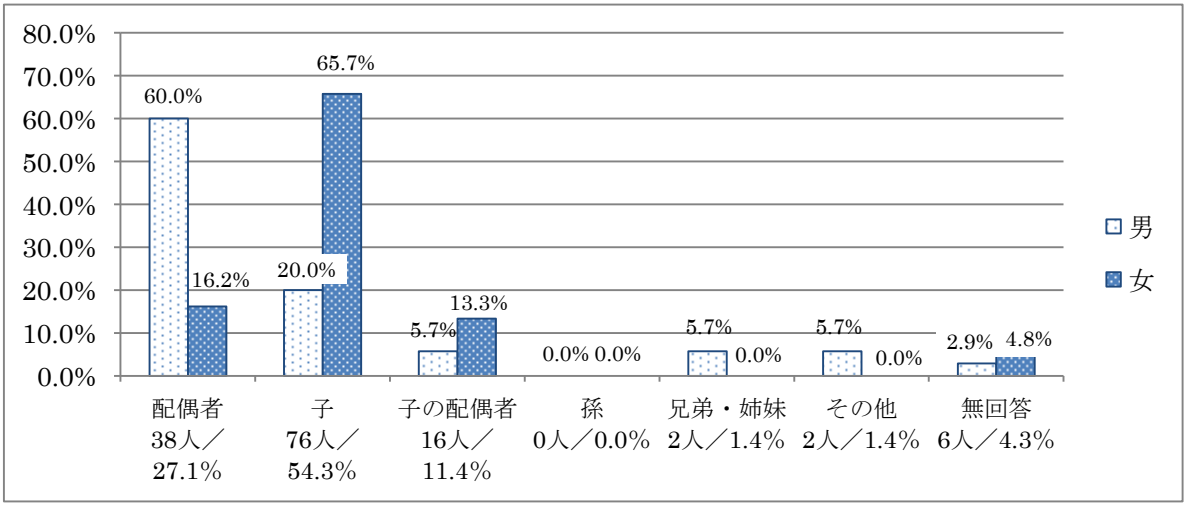
施設等への入所・入居の検討が１９．０％、既に申込みをしたが９．７％で、３人に１人が施設等への利用を希望している。

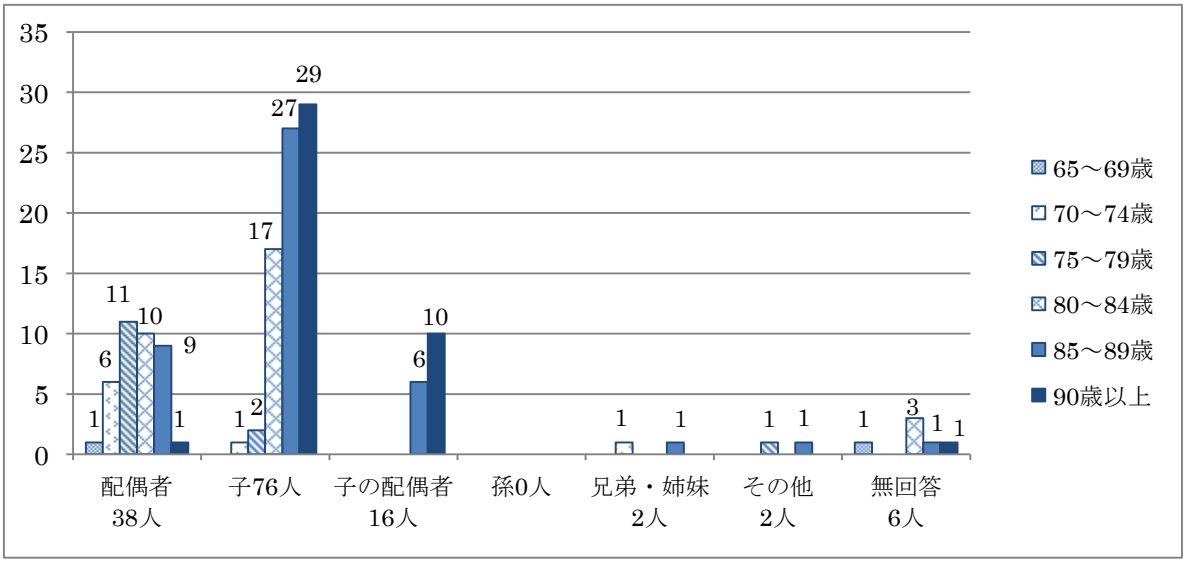


（４）主な介護者はどなたですか

男性は「配偶者」で６０．０％、女性は「子ども」で６５．７％に介護をされている。

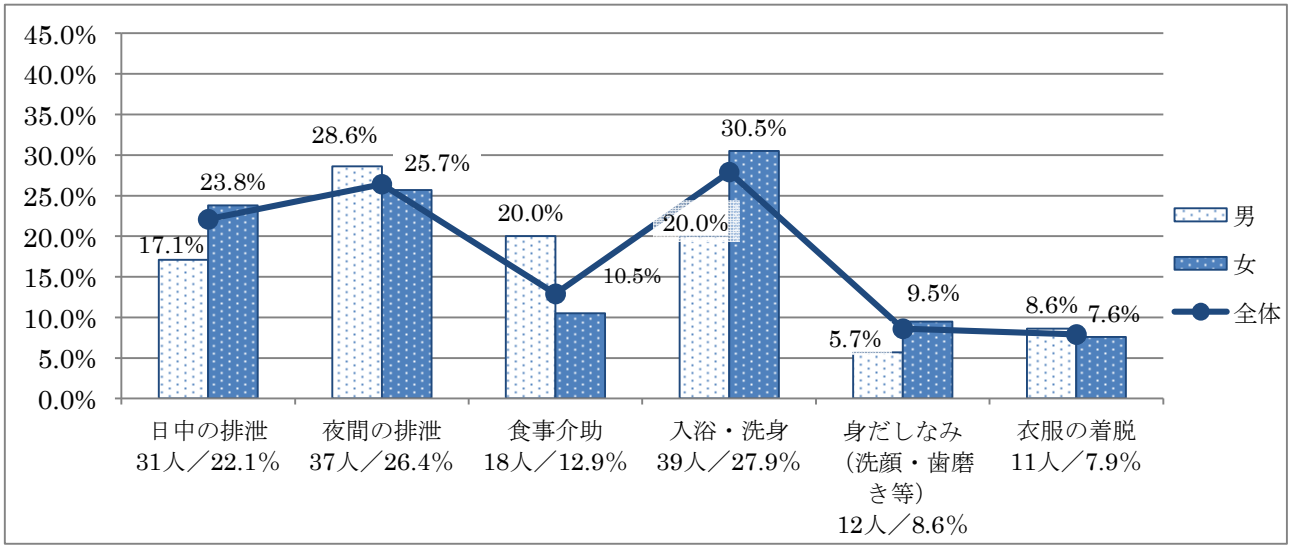
○家族や親族からの介護があると回答した方の内訳

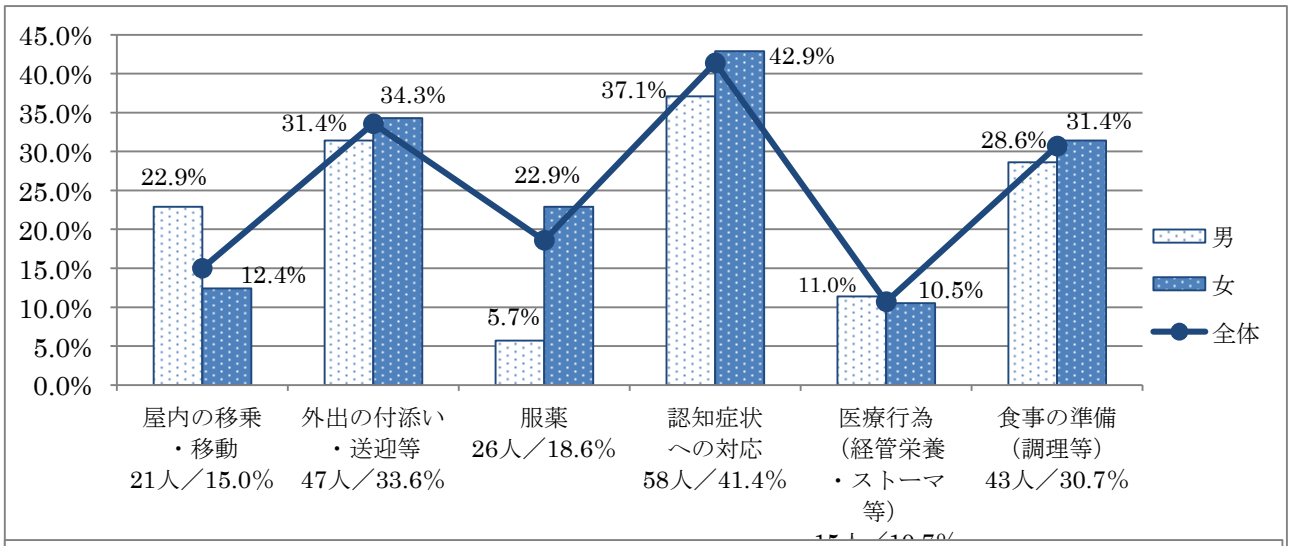


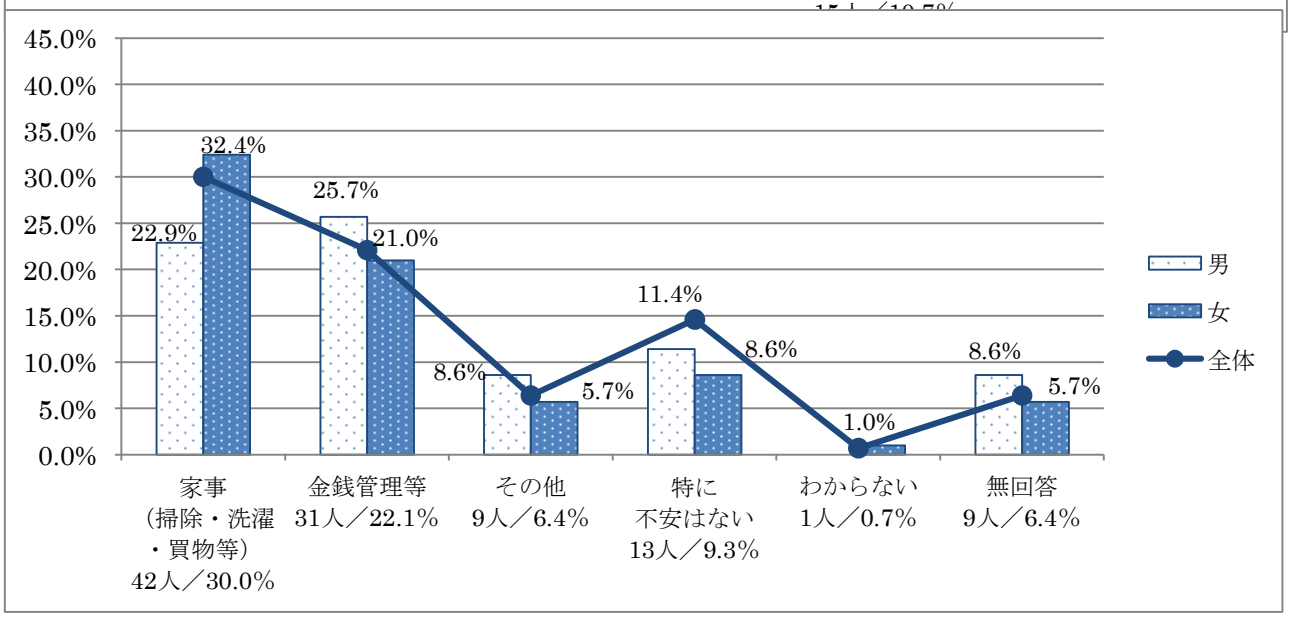


（５）現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について

主な介護者の不安で男女ともに「認知症状への対応」が４１．４％と最も高く、次いで「外出の付き添い等」で３３．６％、「入浴・洗身」で２７．９％である。







第４章　介護サービス事業所調査

１　人材確保や雇用管理、福祉施策について

（１）貴事業所における職員の定着について

前回調査と比較し、「安定し定着している」が２９．９％から３３．０％、「たまに離職者がいるが、ほぼ安定している」が５３．３％から４８．２％、それぞれあわせて８３．２％から８１．２％とほぼ横ばいであり、「離職者が多く、不安定である」が１１．２％から１７．０％に増加している。

区　分	回答数	割　合	前回割合
１　定着し安定している	３７	32.4%	29.9%
２　たまに離職者はいるが、ほぼ安定している	５４	47.4%	53.3%
３　離職者が多く、不安定である	１９	16.7%	11.2%
４　その他	４	3.5%	5.6%

（２）離職理由について

前回調査と比較し、職場などの理由として「収入が少ない」が７．７％から５．６％、家庭などの理由で「家族等の介護・看護」が１０．３％から７．７％、「家族の転勤・転居」が１１．２％から９．２％と減少しているのに対し、「職場の人間関係」が１０．３％から１１．７％に増加している。

区　分	回答数	割　合	前回割合
１　結婚	１３	6.6%	8.2%
２　家族等の介護・看護	１５	7.7%	10.3%
３　収入が少ない	１１	5.6%	7.7%
４　専門性や能力を十分に発揮・向上できない	４	2.0%	1.3%
５　新しい資格を取得した	３	1.5%	1.7%
６　起業・開業	４	2.0%	0.4%
７　職場の人間関係	２３	11.7%	10.3%
８　法人・事業所の理念や運営に不満	４	2.0%	1.3%
９　出産・育児	１０	5.1%	8.6%
１０　労働時間・勤務体制の負担	１０	5.1%	8.2%
１１　家族の転勤・転居	１８	9.2%	11.2%
１２　将来のキャリアが見込めない	２	1.0%	0.4%
１３　他の職場の経験希望	２４	12.2%	12.4%
１４　心身の不調・高齢	４２	21.7%	14.1%
１５　利用者・家族との関係	２	1.0%	0.9%
１６　人員整理、勧奨退職、事業不振等	０	0.0%	0.0%
１７　その他	１１	5.6%	0.0%

（３）人材を新たに確保する際に困っていること

前回調査と比較し、「募集しても応募が少ない」が４３．６％から４３．３％、「優れた人材が集まらない」が１９．８％から２０．０％とほぼ横ばいであるが、少子高齢化社会により就労人口の減少が影響を与えている。

区　分	回答数	割　合	前回割合
1　募集しても応募が少ない	７８	43.3%	43.6%
2　募集コストの割に採用が少ない	２２	12.2%	10.5%
3　応募があっても条件が合わない	１８	10.0%	15.7%
4　優れた人材が集まらない	３６	20.0%	19.8%
5　その他	５	2.8%	2.3%
6　特になし	２１	11.7%	8.1%

（４）今後の福祉施策に必要なことはどのようなことか

前回調査と同様に「福祉人材確保のための方策」が２５．３％と１番多く、次いで「介護事業者への情報提供」、「認知症等の対策強化」が１３．６％と増加している。

区　分	回答数	割　合	前回割合
1　町独自サービスの充実	２７	12.2%	8.7%
2　介護事業者への情報提供	３０	13.6%	11.2%
3　事業者向け研修会等の実施	２４	10.9%	13.2%
4　福祉人材確保のための方策	５６	25.3%	24.6%
5　認知症等の対策強化	３０	13.6%	12.0%
6　事業所間の交流促進	２０	9.0%	11.2%
7　介護保険制度の周知	１５	6.8%	8.7%
8　低所得者対策	１６	7.2%	8.7%
9　その他	３	1.4%	1.7%

（５）介護サービス事業所が感じる音更町に不足しているサービスについて
前回調査と比較して「訪問入浴介護」が５．４％から１１．９％に大きく増加している。

区　分	回答数	割　合	前回割合
訪問介護・訪問型サービス	２０	14.8%	20.0%
訪問入浴介護	１６	11.9%	5.4%
訪問看護	１４	10.4%	9.2%
訪問リハビリ	6	4.4%	9.2%
定期巡回・随時対応型、訪問介護看護	4	3.0%	1.5%
居宅療養管理指導	1	0.7%	0.8%
通所介護（地域密着型含む)、通所型サービス	7	5.2%	11.5%
認知症対応型通所介護	3	2.2%	2.3%
通所リハビリ	8	5.9%	4.6%
短期入所生活介護	7	5.2%	5.4%
短期入所療養介護	4	3.0%	2.3%
特定施設入居者生活介護	3	2.2%	3.1%
福祉用具の貸与	3	2.2%	－
福祉用具の購入	3	2.2%	－
居宅介護支援	－	－	1.5%
夜間対応型訪問看護	－	－	－
小規模多機能型居宅介護	6	4.4%	6.2%
認知症対応型共同生活介護	8	5.9%	3.1%
地域密着型特定施設入居者生活介護	－	－	－
地域密着型介護老人福祉施設	－	－	1.5%
介護老人福祉施設	5	3.7%	2.3%
介護老人保健施設	4	3.0%	1.5%
介護療養型医療施設	4	3.0%	1.5%
介護医療院	3	2.2%	0.8%

第５章　介護支援専門員調査

１　介護支援専門員の状況について

（１）介護支援専門員の年齢について

前回調査と同様に４０歳代、５０歳代が中心となっているが、６０歳代が増加している。

区　分	回答数	割　合	前回割合
１　２０歳代	1	2.7%	0.0%
２　３０歳代	2	5.4%	6.9%
３　４０歳代	１３	35.2%	37.9%
４　５０歳代	１３	35.2%	41.4%
５　６０歳代	8	21.6%	13.8%
６　７０歳代	0	0.0%	0.0%

（２）介護支援専門員の経験年数について

全体的に「５年以上」が６割を占め、経験年数の豊富な介護支援専門員が増加している。

区　分	回答数	割　合	前回割合
１　１年未満	1	2.7%	10.7%
２　１年～３年未満	7	18.9%	25.0%
３　３年～５年未満	7	18.9%	0.0%
４　５年以上	２２	59.5%	64.3%

（３）町との連携により期待することは何か

町との連携に期待するものは、「処遇困難ケースへの指導・助言・支援」が２３．２％、「苦情相談への指導・助言・支援」、「情報提供（介護保険制度・町の高齢者福祉サービス等）」がそれぞれ１１．６％となっている。

区　分	回答数	割　合	前回割合
１　苦情相談への指導・助言・支援	１６	11.6%	13.7%
２　施設入所相談等の相談窓口	１１	8.0%	9.4%
３　ケアプランの指導	7	5.1%	4.3%
４　施設等の空き情報の提供	１３	9.4%	12.8%
５　処遇困難ケースへの指導・助言・支援	３２	23.2%	19.6%
６　情報提供（介護保険制度・町の高齢者福祉サービス等）	１６	11.6%	12.8%
７　ケアマネ研修会やケース検討会の開催	１０	7.2%	7.7%
８　医療機関との調整	8	5.8%	7.7%
９　被保険者・家族に対する制度の周知	１３	9.4%	9.4%
１０　事業者に対するサービスの質の評価及び情報公開	8	5.8%	2.6%
１１　その他	4	2.9%	0.0%

（４）介護支援専門員が感じる音更町に不足しているサービスについて

前回調査と比較して、「訪問入浴介護」が１．９％から５．８％に増加しており、全体の約３割合が訪問系のサービスが不足していると感じている。また「短期入所生活介護」が６．２％から８．０％と増加している。

区　分	回答数	割　合	前回割合
訪問介護・訪問型サービス	２３	8.3%	7.7%
訪問入浴介護	１６	5.8%	1.9%
訪問看護	２２	8.0%	6.2%
訪問リハビリ	１７	6.2%	6.2%
定期巡回・随時対応型、訪問介護看護	5	1.8%	1.0%
居宅療養管理指導	6	2.2%	2.4%
通所介護（地域密着型含む)、通所型サービス	１３	4.7%	7.2%
認知症対応型通所介護	１１	4.0%	4.8%
通所リハビリ	8	2.9%	8.6%
短期入所生活介護	２２	8.0%	6.2%
短期入所療養介護	１９	6.9%	6.2%
特定施設入居者生活介護	7	2.5%	1.9%
福祉用具の貸与	3	1.1%	1.9%
福祉用具の購入	3	1.1%	1.9%
住宅改修	3	1.1%	1.0%
居宅介護支援	6	2.2%	4.3%
夜間対応型訪問看護	１３	4.7%	3.8%
認知症対応型通所介護	１０	3.6%	1.9%
小規模多機能型居宅介護	１５	5.4%	5.7%
認知症対応型共同生活介護	１５	5.4%	4.3%
地域密着型特定施設入居者生活介護	4	1.4%	1.0%
地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護	4	1.4%	1.0%
介護老人福祉施設	9	3.3%	3.3%
介護老人保健施設	8	2.9%	4.3%
介護療養型医療施設	6	2.2%	2.9%
介護医療院	8	2.9%	2.9%

（５）インフォーマルサービスの充実に向けて、地域にどのような活動があれば良いか

前回調査と比較して、「健康づくりや介護予防に関する活動」が５．５％から７．９％に、「高齢者の見守り活動」が１５．５％から１６．５％に、「外出時の付き添いや介助」が１７．３％から１８．３％に増加している。

区　分	回答数	割　合	前回割合
1　災害時等の緊急時の対応	２５	15.2%	18.1%
2　家事の支援活動	１６	9.8%	12.7%
3　サークルや趣味の活動	１９	11.6%	11.8%
4　健康づくりや介護予防に関する活動	１３	7.9%	5.5%
5　音更町や社会福祉協議会等との連絡・調整	９	5.5%	4.5%
6　高齢者の見守り活動	２７	16.5%	15.5%
7　外出時の付き添いや介助	３０	18.3%	17.3%
8　住民同士の交流活動	１４	8.5%	9.1%
9　隣近所や友人・知人による会食	８	4.9%	5.5%

（６）地域包括ケアシステムを構築するために必要なもの

前回調査と比較して、「情報共有手段としてのＩＣＴの活用」が７．４％から１１．６％に、「地域包括ケアシステム構築に向けた行政の支援体制の充実」が１１．１％から１４．０％に、「生活支援サービスの担い手の確保」が１４．８％から１６．３％に増加している。

区　分	回答数	割　合	前回割合
1　地域の社会資源及びニーズの把握	２１	16.3%	17.3%
2　地域の見守りネットワークの強化	２５	19.3%	19.8%
3　地域ケア会議の活性化	１１	8.5%	17.3%
4　生活支援サービスの担い手の確保	２１	16.3%	14.8%
5　地域包括ケアシステム構築に向けた行政の支援体制の充実	１８	14.0%	11.1%
6　情報共有手段としてのＩＣＴの活用	１５	11.6%	7.4%
7　医療・介護従事者の連携強化	１６	12.4%	12.3%

（７）地域包括ケアシステムの構築を促進するために重要な組織・団体は

地域包括ケアシステムの構築を推進するために、「地域包括支援センター」や「介護支援専門員」、「町内会」、「民生委員」が重要とする割合が高い傾向にある。

区　分	回答数	割　合	前回割合
１　地域包括支援センター	２７	17.6%	17.3%
２　社会福祉協議会	１３	8.5%	8.3%
３　介護支援専門員	１８	11.8%	9.1%
４　介護サービス事業所	１２	7.8%	5.8%
５　医師・医療機関	１２	7.8%	11.6%
６　薬局	５	3.3%	3.3%
７　交番	４	2.6%	4.1%
８　消防・消防団	４	2.6%	2.5%
９　町内会	１８	11.8%	9.1%
１０　老人クラブ	３	2.0%	4.1%
１１　民生委員	１９	12.4%	9.9%
１２　認知症サポーター	３	2.0%	2.5%
１３　ＮＰＯ・ボランティア	４	2.6%	3.3%
１４　介護者家族の会	１	0.7%	1.7%
１５　スーパー・コンビニ等	６	3.9%	4.1%
１６　その他民間企業等	４	2.6%	3.3%